

林 1989] を採用することとする。小林編年では、早期は撚糸文系土器の出現からとされている。

- 2 ミュージアムパーク茨城県自然博物館資料課首席学芸主事土屋勝氏、及び北海道大学名誉教授仲谷一宏氏に、校正段階になったため写真ではあるが、同定していただいた（2018.02.15）。
- 3 局部磨製石鏃の時期については、渡邊明氏は若干古く見ている。当遺跡で花輪台Ⅰ式土器など撚糸文土器に伴うスタンプ形石器が採集されていることから、その時期の可能性があると見ているのである。

引用・参考文献

* 発行者は、簡潔を期すため、書名から容易に判別する場合等は省略し、法人格を示す「財団法人」・「株式会社」等は省略した。また、シリーズ名を記すことで替えた場合がある。

- 青池紀子他 2015 『三美中道遺跡Ⅱ 滝ノ上遺跡Ⅱ』茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 22 集
- 青池紀子他 2016 『滝ノ上遺跡Ⅲ』茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 29 集
- 阿久津久 1979 「大宮町小野天神前遺跡の分析」『茨城県歴史館報』6, pp. 26-54
- 阿久津久 1980 「大宮町小野天神前遺跡の分析（2）」『茨城県歴史館報』7, pp. 1-20
- 茨城県歴史館編集・発行 1978 『茨城県大宮町小野天神前遺跡（資料編）』（学術調査報告書 1）
- 江坂輝弥・西田栄 1967 「愛媛県上黒岩岩陰」『日本の洞穴遺跡』平凡社, pp. 224-236, PL57-78
- 大竹憲治他 1988 『薄磯貝塚』いわき市埋蔵文化財調査報告第 19 冊
- 大宮町史編さん委員会編 1977 『大宮町史』大宮町
- 大宮町歴史民俗資料館編 1995 『大宮の考古遺物』大宮町教育委員会
- 小川和博・大淵淳志 2009 『西塙遺跡』日考研茨城・常陸大宮市教育委員会
- 瓦吹堅 1995 「縄文時代」『大宮の考古遺物』大宮町教育委員会
- 瓦吹堅 2014 「常陸大宮市西塙遺跡の大珠」『茨城県考古学協会誌』第 26 号, pp. 131-140
- 栗島義明 2007 「硬玉製大珠の社会的意義」『縄文時代の社会考古学』同成社, pp. 83-106
- 後藤俊一 2013 『鷹巣戸内遺跡』茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 12 集
- 小林達雄編 1989 『縄文土器大観』1, 小学館
- 芹沢長介 1966 「新潟県中林遺跡における有舌尖頭器の研究」『日本文化研究所研究報告』第 2 集, 東北大学日本文化研究所, pp. 1-68
- 高野浩之他 2013 『赤岩遺跡Ⅱ 三美中道遺跡Ⅰ』茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 15 集
- 辻弘和・原川雄二 2009 『西塙遺跡発掘調査報告書』常陸大宮市教育委員会
- 那珂町史編さん委員会編 1990 『那珂町の考古学』那珂町
- 中村信博 2002 「第 4 章 考察—第 1 群 1 類土器（擦痕土器）の編年的位置について—」『天矢場』茂木町埋蔵文化財調査報告書第 2 集
- 中村信博 2017 「堀込型石鏃の研究」『利根川』39, 利根川同人, pp. 1-8
- 平石尚和 2017 『中崎遺跡Ⅰ』茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 31 集
- 三輪孝幸・後藤俊一 2014 『山根遺跡』茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 20 集
- 矢野茂 2007 「214. 茨城県常陸大宮市西塙遺跡の硬玉製大珠」『Aesculus』No. 24, アエスクルス同人, p. 8
- 渡辺誠 1980 「岩版」『薄磯貝塚』福島県立磐城高等学校史学部後援会, pp. 74-76, 第 33 図, 図版第 14

（考古部会専門調査員・常陸大宮市教育委員会囑託職員）

的な石材である。そのヒスイを利用した大珠は、拠点集落である環状集落から基本的に各1個しか出土しないことから、集団内の特別な存在である人が威信財として身に着けていたと考えられている〔栗島2007〕。

当遺跡の渡邊資料には、ほかにも縄文時代中期の土器片や石器類が含まれている。ヒスイ製品を含むこれら資料の分析を通じて、縄文時代中期を中心とした集落の様相がより明らかになる。

結び

以上、渡邊資料のごく一部を紹介した。

渡邊資料は各時代の資料を含むが、特に縄文時代草創期から早期にかけての資料が注目される。これまでは長い間、小野天神前遺跡の早期・沈線文土器がこの

地域最古の土器とされてきた〔大宮町史編さん委1977, 瓦吹1995〕。土器だけでなく、それ以前の縄文時代の遺構・遺物は知られていなかった。最近になって草創期・早期の資料が確認され始めている〔青池他2015・2016, 平石2017〕が、資料的にはまだまだ貧弱である。今回、草創期に属する中崎遺跡の有舌尖頭器、早期に属する下小場遺跡の縄文・撚糸文・擦痕・沈線文等の土器群、上ノ内遺跡の局部磨製石鏃、下小場遺跡・古宿遺跡・上ノ内遺跡の打製片刃石斧などを紹介した。当該時期に関する資料が一挙に充実したことになる。

そのほか、後期旧石器時代に属する三美中道遺跡のナイフ形石器や尖頭器、縄文時代中期に属すると思われる山根遺跡の蛇体把手、西埜遺跡のヒスイ製大珠、後・晩期に属すると思われる小野天神前遺跡の土偶や垂飾・スタンプ形土製品・石剣・独鈷石・線刻礫・岩版等を紹介した。

今回はごく一部を紹介しただけであるが、いずれもきわめて貴重な資料で、それだけでも渡邊資料が地域の歴史を塗り替えるほどの内容、あるいは当時の文化理解を一層深める内容を持っていることが窺えると思う。今後、今回紹介できなかった資料を紹介するとともに、検討を加えることによって、この地域の歴史・文化がより鮮明になっていくものと考えている。今後は報告書刊行に向け、膨大な量の資料を整理していかなくてはならない。そしてより深い資料理解のため努力を重ねなければならないと思っている。種々御教示を賜りたいと願うものである。

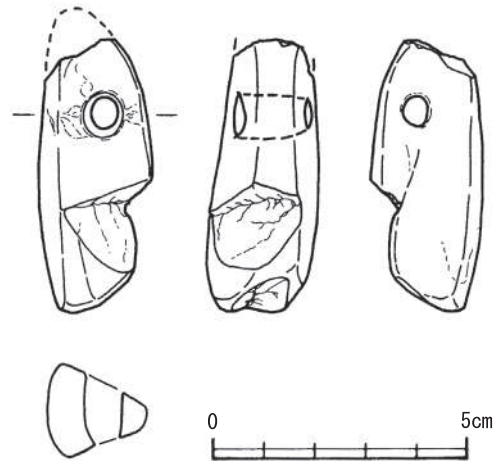
謝辞

本稿を草するにあたり、渡邊明氏はもとより、多くの方々及び機関にお世話になった。特に、市史編さん専門調査員橋本勝雄氏には、一部の石器について実測・トレースをしていただき、多くの御教示も賜った。また、サメの歯に関しては、土屋勝氏、仲谷一宏氏に御教示いただいた。そのほか、以下の方々及び機関には御教示を賜り、あるいは情報収集等でお世話になった。文末ではあるが、記して感謝の意を表したい(順不同、敬称略)。

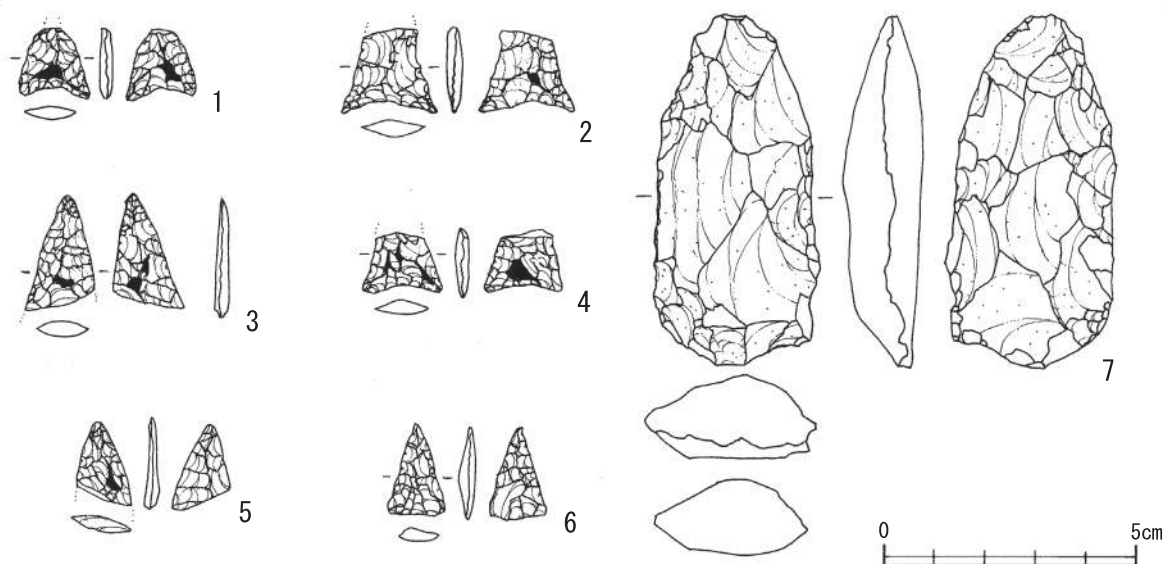
相田尚人、荒井保雄、石橋美和子、稲田健一、江原美奈子、大竹憲治、小野千里、河西恵子、瓦吹堅、鈴木素行、須藤公子、中村信博、西川博孝、皆川修、茨城県埋蔵文化財センター(いせきびあ茨城)、茨城県立歴史館、公益財団法人茨城県教育財団、公益財団法人千葉県教育振興財団文化財センター、ひたちなか市埋蔵文化財調査センター、茂木町ふみの森もてぎ

註

- 1 縄文時代草創期・早期の土器編年体系については、本稿では、現在もっとも一般的である小林編年〔小



第9図 西埜遺跡採集遺物実測図

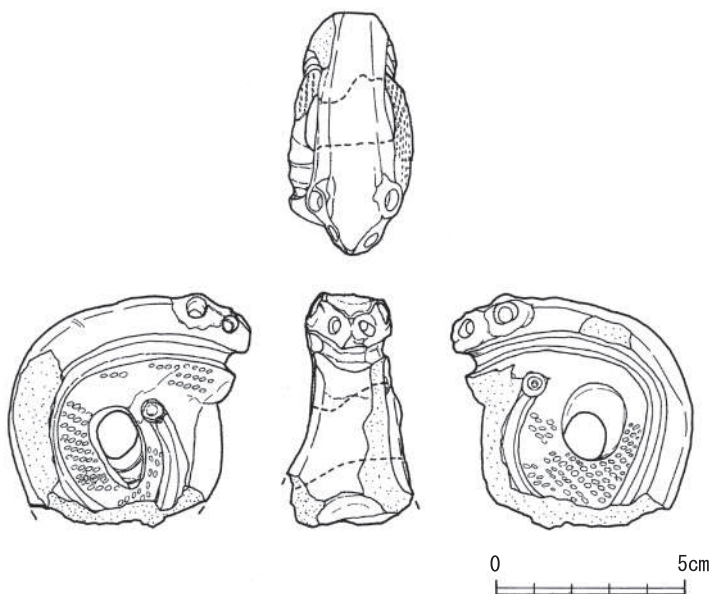


第7図 上ノ内遺跡採集遺物実測図

北関東東部地域を主要な分布圏としている〔中村 2017〕。当遺跡はそうした分布圏の中心部の一面を占める。

(10) 山根遺跡（第8図，巻頭写真3-3）

那珂川との合流地点に近い緒川の右岸河岸段丘上に立地する，縄文時代から平安時代の集落遺跡である。一部が調査され，弥生時代後期と平安時代の住居跡等が確認されている〔三輪他 2014〕。



第8図 山根遺跡採集遺物実測図

寄贈資料は1点で，縄文土器の装飾把手である。その形状からは蛇を象った蛇体把手と考えられる。円環状の蛇体の上に，横に突き出す頭部を表現し，2対の穴で鼻孔と目を表現している。頭部は三角形で，マムシを表している可能性がある。蛇体把手は縄文時代中期に特徴的な装飾であり，その時期の遺構の存在を推測させる。当時の文化や縄文人の意識を探るうえでよい資料となろう。

(11) 西埜遺跡（第9図，巻頭写真3-2）

那珂川左岸の河岸段丘上に立地する，縄文時代中～晩期と奈良・平安時代の複合遺跡である。一部が調査され，縄文時代中期の拠点集落の一部が明らかになっている〔辻他 2009，小川他 2009〕。

第9図はヒスイ（硬玉）製大珠である。形状はいわゆる「鯉節形」に近い。頭部に新しい欠損があり，現状での計測値は長さ5.5 cmであるが，約6 cmに推定復元できよう。頭部側1/3ほどの部分に，先端の丸い棒状工具により片側から穿孔された貫通孔がある。胴部に見え隠れする部分があるが，角が摩耗しており素材段階以前の割れであろう。当遺跡ではすでに2点のヒスイ製大珠が採集されており〔矢野 2007，瓦吹 2014〕，本例が3例目になる。縄文時代中期の所産と考えられる。ヒスイは，日本では新潟県の糸魚川周辺でのみ産出する貴石で，縄文時代における広域流通の対象として代表

1～28は縄文土器である。1は不鮮明だが縄文を施文する早期前葉・夏島式土器，2・3は撚糸文を粗く施文する早期前葉・稻荷台式土器，4～11は擦痕が著しい無文土器，いわゆる擦痕土器で，撚糸文系に後続する早期前葉・花輪台Ⅱ式土器〔那珂町史編さん委1990〕，または天矢場式土器〔中村2002〕，12～19は沈線文を施文する早期中葉・三戸式土器，20は沈線文と連続刺突を施文する早期中葉・田戸下層式土器である。21～24は沈線文を施文する三戸式または田戸下層式土器であろう。25は尖底土器の尖底に近い破片で，三戸式または田戸下層式のものと思われる。26は胎土に繊維を含み内外面に条痕文を施す早期後葉のものであろう。27は貝殻による連続刺突文を施文する前期中葉・浮島式土器，28は貝殻圧痕文を施文する興津式土器である。29(写真3-8)は打製片刃石斧である。両面加工で，裏面の上下両端に平滑な自然面を残す。石材はホルンフェルス，長さは16.9cmである。形状から，縄文時代早期後半から前期前半の所産と考えられる。

今回，縄文時代早期，中でも早期前葉の土器群が明らかになったことは，当地域史の理解にとってきわめて意義深い。打製片刃石斧もこれまで当市域では知られていなかったものである。

(6) 弁慶松塚群

久慈川右岸河岸段丘のやや内部に位置し，近世の塚2基が確認されている。発掘調査はされていない。採集資料は内耳土器片9点である。

(7) 古宿遺跡 (第6図)

那珂川左岸河岸段丘上に立地する，縄文・古墳・奈良・平安時代の集落遺跡である。調査歴はない。

採集されている資料は1点で，打製片刃石斧である。石材はホルンフェルスで，ほぼ完存し，長さは11.0cmである。基部は尖頭状をなす。形状から縄文時代早期の所産と考えられる。

(8) 野上槻遺跡

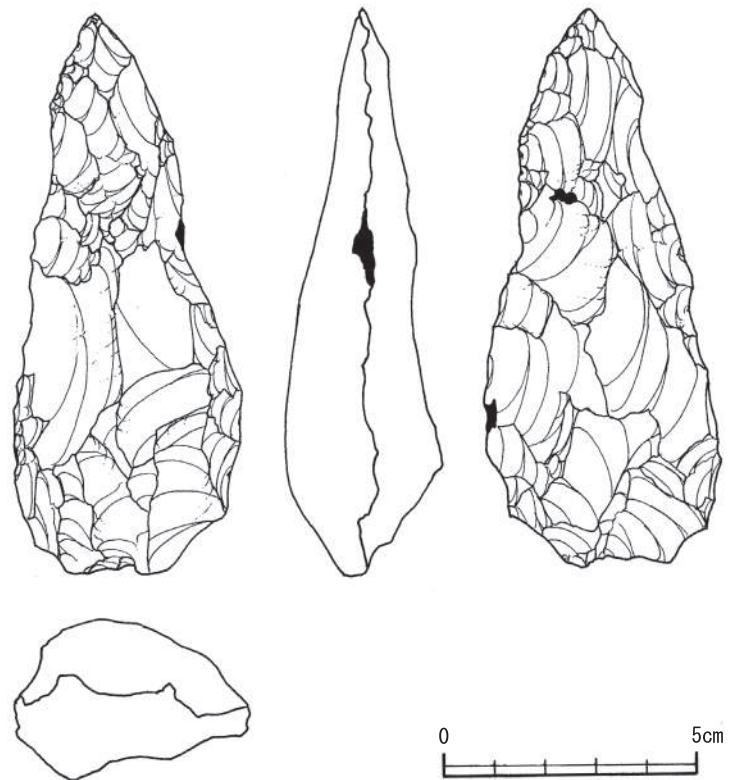
久慈川右岸河岸段丘上に立地する，旧石器時代，縄文時代と平安時代の複合遺跡である。当遺跡は，かつて渡邊氏が表採資料を当市教育委員会に届けたことから周知に至った経緯がある。調査歴はない。

採集資料は，旧石器時代の石核・剥片と平安時代の土師器・須恵器が主なものである。

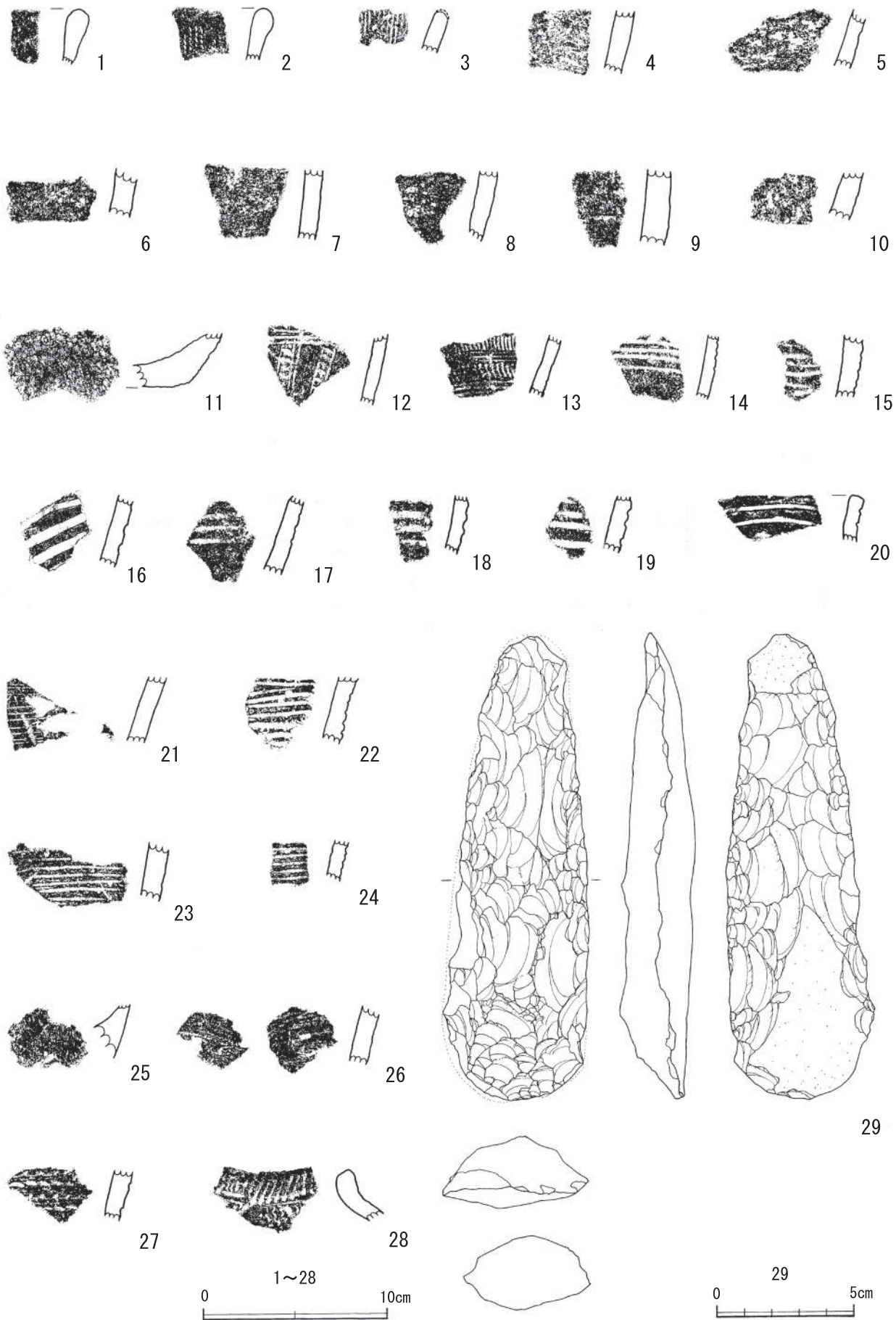
(9) 上ノ内遺跡 (第7図)

栃木県境に近い，那珂川左岸の低位段丘上に立地する，縄文時代と奈良・平安時代の遺跡である。調査歴はない。

採集資料には擦痕土器・石鏃・打製石斧・スタンプ形石器が含まれる。1～5は局部磨製石鏃，6は平基の石鏃，7はいわゆるトロトロ石製の打製片刃石斧で，いずれも縄文時代早期前半・花輪台Ⅱ式土器〔那珂町史編さん委1990〕，または天矢場式土器〔中村2002〕に伴うものと考えられる。局部磨製石鏃は，天矢場式土器に伴う堀込型石鏃に特徴的なもので(註3)，栃木県から茨城県にかけての



第6図 古宿遺跡採集遺物実測図



第5図 下小場遺跡採集遺物実測図

4は勾玉形の石製垂飾である。小型扁平な自然礫を利用し、若干磨って整形している。長さは2.5 cmである。頭部に両面穿孔により小孔を開け、脚部には磨りにより細かなキザミを入れる。

5はサメの歯の化石製の垂飾である。現状では縦に割れて半分を欠失している。長さは2.3 cmである。歯の形状をおおよそ残して全面を研磨調整し、歯根に近い部分に両面穿孔により1孔を開け、側縁上部には磨りにより小さな抉りを入れる。側縁は水磨または研磨により滑らかな線を示すが、エナメル質部分の中に象牙質が点々と露出する。鋸歯縁の痕跡である。サメの種類はホホジロザメで、利用されているのは上顎歯の1本である(註2)。

6は独鈷石である。石材は閃緑岩である。全体は扁平で、両端は石斧状を呈する。中央部付近の1対の隆起は滑らかな面で形成される。晩期の所産であろう。

7(写真3-6)は石剣の先端部付近の破片である。粘板岩製で、先端部にはわずかな段を有する。非常に精巧に作られ、それぞれの段及び段の頭部側には渦巻き文とI字状文を線刻する。線刻部分には赤色顔料が濃密に残存する(図中、赤アミ部分)。

8は線刻礫で、その表現からは岩偶と呼んでもよい。灰白色の凝灰質泥岩の扁平な楕円礫を利用しており、長さは13.8 cmある。正面に横1条とそこから垂下する6条の細く浅い線を刻む。線刻表現の類例としては愛媛県上黒岩岩陰遺跡[江坂他1967]のものがあり、髪・乳房・腰蓑の線刻により女性を表現しているとされ、「ヴィーナス像」と呼ばれることもある。本例の線刻は、その腰蓑の表現に共通する。上黒岩例は、時期的には縄文時代草創期の所産とされる。周辺地域では福島県いわき市薄磯貝塚[渡辺1980, 大竹他1988]の多数の線刻礫がある。腰蓑を表現する例はないが、石材は共通する。時期的には晩期のものである。本例の年代については、薄磯貝塚例との石材の共通性や当遺跡の他の遺物の年代等から、晩期の所産と考えておきたい。

9(写真3-7)は岩版である。凝灰質泥岩を長方形の板状に整形しており、長さは8.7 cm、幅は6.0 cmある。正面一杯に、複合した線でS字状の文様を線刻する。

当遺跡採集資料は、前述したように膨大で、縄文時代晩期を中心にした多様な遺物を含む。今回紹介したものはごく一部に過ぎないが、当時の精神性豊かな文化を髣髴させる貴重なものである。

(3) 鷹巣戸内遺跡

久慈川右岸の低位段丘に立地する。一部が発掘調査され、平安時代から中世の集落跡が確認されている[後藤2013]。採集資料は1点で、灰釉陶器碗の高台の付いた底部片である。発掘調査でも灰釉陶器が出土している。

(4) 中崎遺跡 (第4図)

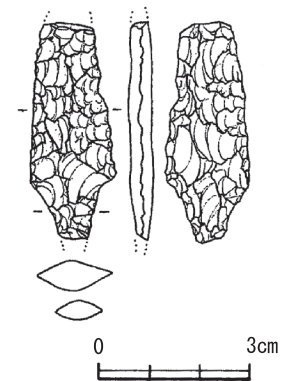
那珂川左岸の河岸段丘上に立地する。一部が調査され、縄文時代草創期の陥し穴、早期(三戸式)・前期(黒浜式)・後期(称名寺式)の竪穴住居跡が確認されている[平石2017]。

図示したのはチャート製の有舌尖頭器である。長さは、両端が折損しているが、現状で4.4 cmで、復元すると7 cm前後になろう。長身のいわゆる「小瀬ヶ沢型」[芹沢1966]に分類されるものである。有舌尖頭器は縄文時代草創期に特徴的な石器とされているが、本例は市内唯一の例になる。

(5) 下小場遺跡 (第5図, 巻頭写真3-8)

那珂川左岸の河岸段丘上に立地する、縄文・古墳・奈良・平安時代及び中世の集落遺跡である。これまで発掘調査等はされていない。

寄贈資料には、縄文時代早期及び前期の土器群と石器群、平安時代の土師器・須恵器、中世の青磁・青白磁・古瀬戸などが含まれる。



第4図
中崎遺跡採集遺物実測図



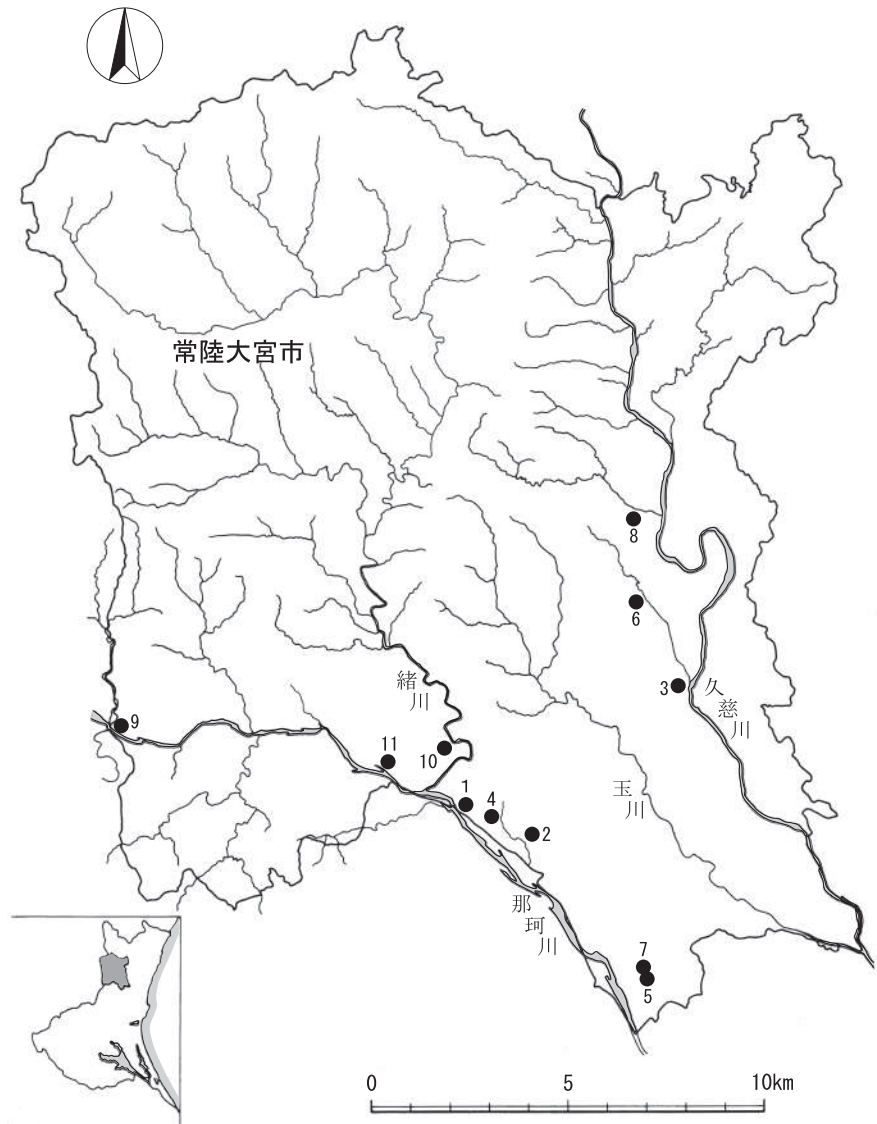
第3図 小野天神前遺跡採集遺物実測図

(2) 小野天神前遺跡 (第3図, 巻頭写真3-1, 4~7)

那珂川左岸の河岸段丘上に立地する。1976 (昭和51) 年に一部の発掘調査が行なわれ, 弥生時代中期の再葬墓遺跡として著名な遺跡となっている [茨城県歴史館 1978, 阿久津 1979・1980]。しかし, 縄文時代後・晩期の大遺跡でもあり, そのほかにも旧石器時代・平安時代などの遺跡が複合する。

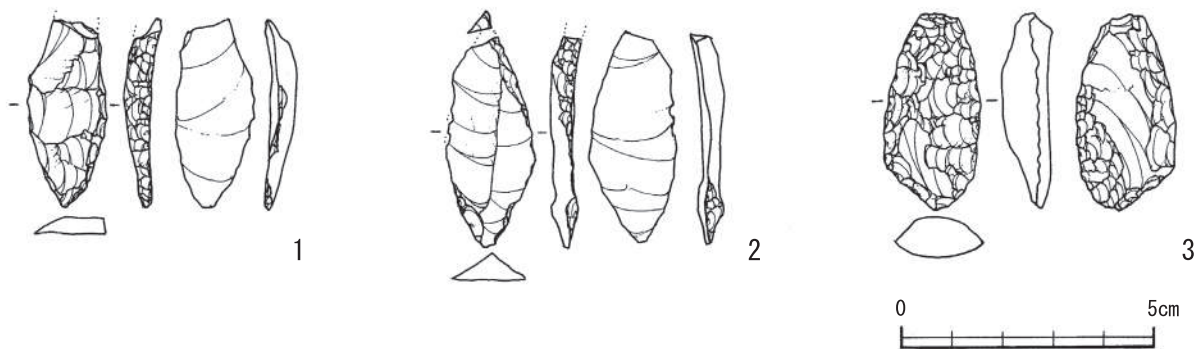
1 (写真3-5) はハート形土偶の頭部である。顔面上半部から頭部にかけて残存し, ハート形の顔面, 大きな鼻, 環状の粘土紐を貼った目などがハート形土偶の特徴を示している。ハート形土偶は縄文時代後期初頭に特徴的な土偶で, 北関東地方を中心として分布する。

2 (写真3-4) は, 左右両脇を欠損しているが, 山形



第1図 採集遺跡位置図

* 図中の番号は表の番号と対応する。



第2図 三美中道遺跡採集遺物実測図

土偶の頭部である。粘土板に粘土紐を貼り付けて顎を表し, 眉と鼻はT字状の隆帯によって, 目と口は棒状工具による刺突で表現する。耳は小孔を開ける。山形土偶は, 縄文時代後期中葉の関東地方, 特に霞ヶ浦から利根川水系に特徴的な土偶である。

3 (写真3-1) はスタンプ形土製品である。長さ4.7cmの楕円形の「スタンプ」部に小孔を開けた撮み部が付く。「スタンプ」面の文様は, 短軸方向と長軸方向 (正中線) の刻線で構成されている。

表 採集遺跡と主な遺物（2017. 3. 15～2017. 12. 26 寄贈分）

No.	遺跡番号	遺跡名	所在地	点数	主な時代と遺物
1	大 009	三美中道遺跡	三美字中道 755 外	20	旧石器時代/ナイフ形石器・尖頭器
2	大 013	小野天神前遺跡	小野字天神前 2848-1 外	5,727 (5,174)	縄文時代後・晩期/石鏃・磨石・石錘・土偶・線刻礫・岩版・石剣・装身具・骨角器等, 平安時代/土師器, 中世/陶磁器
3	大 034	鷹巣戸内遺跡	鷹巣字埜 910 外	1	平安時代/灰釉陶器
4	大 087	中崎遺跡	三美字小林 1024 外	460	縄文時代草創期/有舌尖頭器, 早期/土器
5	大 089	下小場遺跡	小場字下小場 6634 外	255	縄文時代早・前期/土器・打製片刃石斧
6	大 093	弁慶松塚群	小祝字弁慶松 561-1 外	9	近世/内耳土器
7	大 113	古宿遺跡	小場字古宿 295 外	1	縄文時代早期/打製片刃石斧
8	山 026	野上槻遺跡	野上字槻 2860 外	99	旧石器時代/剥片, 平安時代/土師器
9	御 020	うえのうち 上ノ内遺跡	野田 1565 外	138	旧石器時代/剥片, 縄文時代早期/土器・石器, 平安時代/土師器
10	御 069	山根遺跡	野口平 554-1 外	1	縄文時代中期/土器・蛇体把手
11	御 081	西埜遺跡	野口 1900-1 外	189 (181)	縄文時代/ヒスイ製大珠
計		11 遺跡		6,900 (6,339)	

*遺跡番号は旧町村のものを引き継いでおり、同一番号を区別するために旧町村名の頭文字を冠している。「大」「山」「御」はそれぞれ大宮町、山方町、御前山村であることを示す。本表は、旧町村ごと、遺跡番号順に配列した。

*点数欄の（ ）内は骨角片を除いた点数である。

骨角器を含む骨角細片が多いのでそれらを除いても合計 6,339 点中 5,174 点で、81.6%とやはり多数を占めている。小野天神前遺跡の中では石鏃・同未成品が多く、1,938 点（33.8%）あった。渡邊氏によれば、同遺跡には少なくとも 200 回以上は表採に行ったとのことである。散布する遺物がきわめて多く、また多種多様であり、おそらくそうしたこともあって表採回数も多くなったものと思われる。いずれにせよ、小野天神前遺跡が数量と多様性で他を圧倒している。

時代別では、旧石器時代から近世までと幅広いが、やはり多いのは縄文時代である。これは、上述した小野天神前遺跡の遺物が多量であることと連動する。一方で、遺跡での絶対量が少ないと思われる旧石器や縄文時代草創期・早期^(註1)の遺物が一定程度含まれている。こうした事実には渡邊氏の関心の所在が関係しているのは間違いない。

2 資料紹介

以下、表の順にしたがい、遺跡ごとに、遺跡の簡単な紹介をした上で主な遺物を紹介する。ただし、紙幅の関係ですべての遺跡での図の掲載はできなかった。諒とされたい。

(1) 三美中道遺跡（第2図）

那珂川左岸の河岸段丘上に立地する。一部が発掘調査され、縄文時代中期の集落跡のほか、旧石器時代石器集中地点や奈良・平安時代と中近世の集落も確認されている〔高野他 2013, 青池他 2015〕。

1・2 はナイフ形石器、3 は尖頭器である。石材はいずれもメノウで、長さは最も長い 2 が現状で 4.1 cm である。ナイフ形石器は後期旧石器時代・砂川期の所産で、尖頭器も同時期と見てよい。

<資料紹介>

渡邊明氏採集の常陸大宮市内考古資料（予報）

萩野谷 悟

はじめに

渡邊明氏（那珂市在住，1949年（昭和24）4月12日生まれ）は，茨城県内を中心とした遺跡の出土遺物の表面採集（以下，「表採」）活動で知られた考古学研究者である。半世紀を超える活動の結果，膨大な量の資料を所持しておられ，その中にはきわめて貴重な資料を含んでいる。渡邊氏の活動範囲は広く，常陸大宮市はおろか茨城県内にも収まらず，千葉県や栃木県等にも及んでいる。それは勤務先が日本専売公社（のち，日本たばこ産業株式会社）で，煙草の買い付け等でそれらの地域の農村を訪問することが多かったこととも関係する。主な表採の対象は旧石器時代から縄文時代の遺物であるが，各地域の考古遺物をひとつお理解するため，また遺物の散逸を防ぐため，目に触れた遺物は他の時代の遺物もすべて採集されている。渡邊氏は自らの活動を「畑乞食」と卑下するが，資料の散逸を防いだ点でも高く評価されるべきである。現在は，今後の資料活用を考慮し，地元自治体への返還の努力をされている。

渡邊氏は常陸大宮市内採集遺物をこれまでも当市の歴史民俗資料館や教育委員会に寄贈されてきたが，そこでは十分な対応ができていなかった。常陸大宮市では2016年（平成28）度から市史編さん事業を開始することになり，これを機にこうした資料の受け入れ態勢を整えるとともに，受け入れた資料の整理・調査・研究及び公開をすることとした。渡邊氏の資料もこうした態勢の中で受け入れることになった。返還・寄贈された渡邊氏には衷心から深い感謝の意を表す。

渡邊氏から寄贈された常陸大宮市内関係資料（以下，「渡邊資料」）については，現在，筆者も加わって，市史編さんの一環として整理作業を進めているところである。作業は2016年度末から開始したが，いまだ全容が把握できていない。確実に把握できているのは，資料の受け入れ態勢を整えたのちの寄贈分で，2017年（平成29）3月15日から現在（2017年末）までの，寄贈の回数にして36回分である。それ以前の分については，現段階においては充分把握できていない。

本稿では渡邊資料の一部を紹介する。ただ，以上のような状況の中での紹介となるので，確実に把握できている上記期間受け入れ分を対象としたい。それ以前の受け入れ分を含む渡邊資料の整理作業の成果は後日資料調査報告書として刊行する予定であるが，当該地域の歴史を知る上できわめて重要な資料を多数含むことから，報告書に先行して一部を紹介することとした次第である。

なお，本稿は予報であり，報告書刊行後はそれが正式報告となるのでそちらに拠られたい。また，本稿は紙幅の制約もあって説明等が不十分な部分も多いが，報告書では過不足なく説明等をする所存なので，その意味でも報告書刊行後はそちらに拠られたい。

1 渡邊資料について

本稿が対象とする渡邊資料について，表に採集遺跡と遺物の点数及び主な遺物，第1図に採集遺跡の位置を示した。総量は，久慈川・那珂川の河原などから採集した石材標本を除き，11遺跡の表採資料6,900点である。遺物用のコンテナ6箱分になる。

旧町村別では，大宮町7遺跡，御前山村3遺跡，山方町1遺跡で，緒川村・美和村は含まれない。市域の南半部に集中する。南部は河岸段丘が多く，遺跡立地の好条件を備えていたことに加え，煙草栽培に適した畑地が多く，渡邊氏の訪問機会が多かったであろうこととの関連が窺われる。

遺跡別の遺物点数では，小野天神前遺跡が5,727点で，83.0%と圧倒的多数を占める。同遺跡は

常陸大宮市史編さん事業 活動記録

常陸大宮市史編さん事業始動までの経緯

市史編さん事業を着手するにあたり、平成二六年度から平成二七年度にかけて、計四回に及ぶ基本計画策定検討委員会を開催し、編さん方針について検討を実施してきた。その後、議論は市史編さん審議会（平成二七年度―）に引き継がれ、平成二八年三月三〇日に常陸大宮市史編さん基本方針として成立したことで、常陸大宮市史編さん委員会が組織され、本格的な事業着手が可能となった。

〈平成二六年度〉

○第一回常陸大宮市史編さん基本計画策定検討委員会（平成二六年一月二八日）

※開会前、委員七名に委嘱状を交付（役職は委嘱当時のもの）

- ・ 上久保 洋一委員（委員長、常陸大宮市教育長）
- ・ 星野 幸子委員（常陸大宮市教育委員長）
- ・ 内田 征一委員（常陸大宮市社会教育委員会議長）
- ・ 桐原 幸一委員（常陸大宮市文化財保護審議委員）
- ・ 高橋 修委員（茨城大学 人文学部 教授）
- ・ 大津 忠男委員（茨城県立歴史館 史料学芸部長）
- ・ 鈴木 素行委員（公益財団法人 ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社 文化財調査事務所長）

・ 常陸大宮市史編さん事業の基本計画策定にあたり、第一回目の委員

会として開催。
熊谷市史をはじめとした他自治体の事例を参考に、具体的な編さん方針について検討。

○第二回常陸大宮市史編さん基本計画策定検討委員会（平成二七年二月二日）

・ 第一回会議の検討内容を踏まえ、常陸大宮市史編さん基本方針（案）を示す。

・ 組織体制及び事業計画・刊行スケジュールについて検討。

○熊谷市史編さん室視察（平成二七年三月六日）

・ 常陸大宮市史編さん基本計画策定検討委員会副委員長の高橋修教授より、市史編さん事業を実施している熊谷市史編さん室視察の提案があったため、熊谷市立妻沼展示館を訪問・視察を実施。

・ 視察にあたり、次の七点について話し合いを実施。

- ① 熊谷市政における市史編さん事業の位置づけ
- ② 市史編さん事業全体で見込んでいる経費の概算
- ③ 編集委員以外の調査協力者募集方法と経費
- ④ 部会ごとの資・史料調査方法
- ⑤ 『熊谷市史』の構成について
- ⑥ 事務局が担当する調査内容・データ作成について
- ⑦ 事業を進めるうえでのアドバイス

○第三回常陸大宮市史編さん基本計画策定検討委員会 (平成二十七年三月九日)

- ・平成二十七年度に市史編さん組織を立ち上げるため、第二回検討委員会の協議内容を反映した市史編さん方針改正案について検討。
- ・組織体制については、人数及び人員の配置、調査担当者の人選に関する議論を実施。
- ・諮問機関として、常陸大宮市史編さん審議会の設置を決定。

〈平成二十七年度〉

○第四回常陸大宮市史編さん基本計画策定検討委員会 (平成二十七年五月一九日)

- ・常陸大宮市史編さん審議会設置条例 (案) の検討と、条例案に基づく常陸大宮市史編さん基本方針 (案) の修正を実施。
- ※常陸大宮市史編さん基本計画策定検討委員会を解散し、審議内容を九月議会、教育委員会に上程。条例案の可決後、速やかに常陸大宮市史編さん審議会を開催する。

常陸大宮市史編さん審議会

〈平成二十七年度〉

○第一回常陸大宮市史編さん審議会 (平成二十七年一月二日)

会場：常陸大宮市役所本庁 二〇三会議室
 〈議事内容〉

- ※開会前、市史編さん審議会委員一五名に委嘱状及び任命状を交付
- ・高橋 修委員 (学識経験を有する者)
- ・西野 由希子委員 ()

- | | | |
|--|--|--|
| <p>7 協議事項</p> <p>①常陸大宮市史編さんの基本方針について (諮問)</p> <p>・常陸大宮市史編さん事業の方針や体制、刊行物構成、事業スケ</p> | <p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 会長選出</p> <p>4 野上公雄委員を会長に選出。</p> <p>5 西野由希子委員を副委員長に選出。</p> <p>6 報告事項</p> <p>・常陸大宮市史編さんの経緯について報告。</p> <p>・審議会設置の主旨について報告。</p> | <p>・富山 章一委員 ()</p> <p>・相田 希委員 (市長が必要と認める者)</p> <p>・大串 啓子委員 ()</p> <p>・大武 哲雄委員 ()</p> <p>・大森 有子委員 ()</p> <p>・木村 宏委員 ()</p> <p>・坂井 勇委員 ()</p> <p>・野上 公雄委員 ()</p> <p>・武藤 信一委員 ()</p> <p>・平島 則子委員 ()</p> <p>・野内 正美委員 ()</p> <p>・猿田 茂彦委員 ()</p> <p>・皆川 修委員 ()</p> |
|--|--|--|

ジュール等について審議。

②今後のスケジュールについて

・第二回審議会の日程を検討。

③その他

8 閉会

○第二回常陸大宮市史編さん審議会（平成二十七年二月二五日）

会場：図書情報館 研修室

〈議事内容〉

1 開会

2 あいさつ

3 協議

①常陸大宮市史編さん基本方針（案）について

・編さん方針の内容について検討。

・事業スケジュール、刊行物に関する審議を実施。

②常陸大宮市史編さん委員会設置要項（案）について

③その他

○第三回常陸大宮市史編さん審議会（平成二八年二月五日）

会場：図書情報館 研修室

〈議事内容〉

1 開会

2 あいさつ

3 協議

①市史編さん基本方針（改定案）について

・方針内容および事務局の体制について検討。

・市史編さん事業の周知、情報発信に関する議論を実施。

②答申書に盛り込む提言について

③その他

4 閉会

○第四回市史編さん審議会（平成二八年三月一五日）

会場：図書情報館 研修室

〈議事内容〉

1 開会

2 あいさつ

3 協議

①答申（案）について

・内容の確認及び修正を実施。

②その他

・完成した基本方針については、教育委員会へ報告後、平成二八年三月三〇日に市長へ答申を実施。

・常陸大宮市史編さん事務局は、平成二八年度に新設される歴史文化振興室に設置。

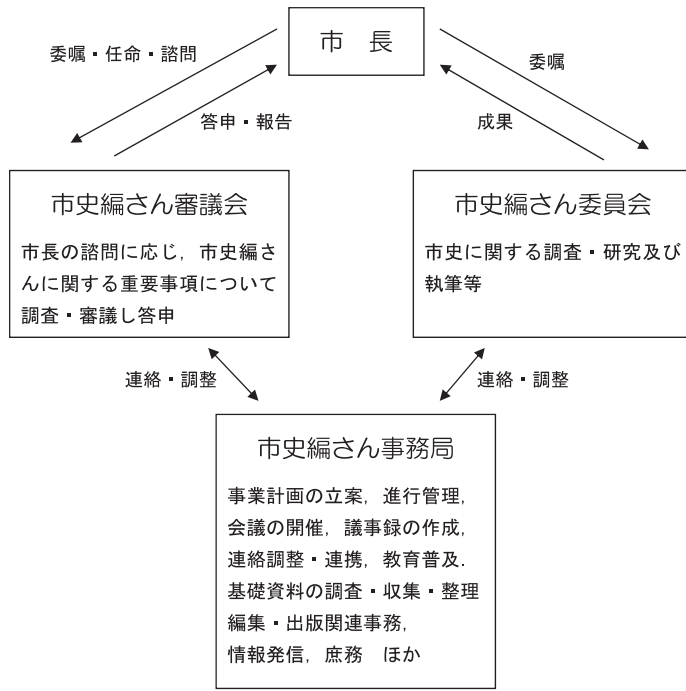
・平成二八年度に第一回常陸大宮市史編さん委員会を実施。

4 閉会

※常陸大宮市史編さん事業の組織体制については、次の通り。

①常陸大宮市史編さん審議会

「常陸大宮市史編さん審議会条例」によって、学識経験者・一般市民及び市の職員の代表者で構成。諮問機関として、市長の諮問等に応じて会議の開催や答申等を実施。



【図】常陸大宮市史編さん 事業体制

②常陸大宮市史編さん委員会

「常陸大宮市史編さん委員会設置要綱」によって専門知識を有する監修者と専門委員で構成。専門部会を置き、「常陸大宮市史編さん基本方針」を受け、年次計画に従って調査・研究・執筆等を実施。

③常陸大宮市史編さん事務局

事務局は教育委員会に設置され、事業計画の立案と進行管理、審議会及び委員会、専門部会の開催及び議事録の作成、委員や他機関、関連団体との連絡調整、刊行物の印刷校正及び出版、関係部署と連携しての古文書・行政資料・文化財等の所在・確認調査、資料収集並びに整理、その他情報発信や教育普及、庶務・経理的な事務を実施。

〈平成二八年度〉

○第一回常陸大宮市史編さん審議会（平成二八年一月二八日）
会場：常陸大宮市役所本庁 二〇一会議室、二〇二会議室

〈議事内容〉

※開会前、退任・退職となった坂井勇氏、猿田茂彦氏、皆川修氏の三名を委員から解職し、新たに三名を審議会委員として委嘱、任命。

・佐藤 隆男委員（市長が必要と認める者 ※区長会長）

・山崎 俊夫委員（ 〃 ※常陸大宮市役所 総務部長）

・佐藤 浩之委員（ 〃 ※常陸大宮市役所 政策審議官）

1 開会

2 あいさつ

3 出席者自己紹介

4 報告

・平成二八年度常陸大宮市史編さん事業の経過について報告。

5 協議

①今後の予定について

・平成二八年度事業予定、平成二九年度事業計画及び予算要求額について、事務局から説明。

②市史編さん事業関連の教育普及活動について

・「常陸大宮市史編さんだより」の連載、『常陸大宮市史研究』の刊行について説明、議論を実施。

・インターネットを利用した周知や普及版の作成など、事業の周知方法に関して検討。

5 閉会

○第二回常陸大宮市史編さん審議会（平成二九年三月二二日）

会場：常陸大宮市役所本庁 二〇三会議室

〈議事内容〉

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 報告
 - ①常陸大宮市史編さん事業の進捗状況について
 - ・部会員の委嘱状況、事業の進捗状況、教育普及活動について報告。
- ②平成二九年度事業計画について
- 4 協議
 - ①市史編さん事業支援ボランティア組織の立ち上げについて
 - ・支援ボランティアの組織体制、支援内容に関する議論を実施。
 - ②教育普及活動について
 - ・出前講座や学生を利用した活動など、教育普及活動の今後について議論を実施。
- 5 閉会

〈平成二九年度〉

○第一回常陸大宮市史編さん審議会（平成二九年八月二九日）

会場：歴史民俗資料館大宮館 講座室

〈議事内容〉

- ※開会前、退職・異動となった武藤信一氏、山崎俊夫氏を委員から解職し、新たに二名を審議会委員として委嘱。
 - ・松崎 英政委員（市長が必要と認める者 ※学校教育関係者）
 - ・坂井 秀規委員（ 〃 ※常陸大宮市役所 総務部長）
- 1 開会
 - 2 あいさつ

3 報告

- ①常陸大宮市史編さん事業の進捗状況について
- ・部会員の委嘱状況、事業の進捗状況について報告。
- ②教育普及活動について
- ・『常陸大宮市史研究』の概要、市史編さん事業関連イベント、情報提供の件数について報告。
- 4 協議
 - ①市史編さん事業への協力団体について
 - ・旧自治体史の編さんに携わった人物や、市内の歴史・地理に造詣の深い人物に協力してもらえる体制作りを検討。
 - ②市史編さん事業の周知について
 - ・他事業、他分野との連携に関する議論を実施。
 - ・市外への情報発信を検討。
 - ・郷土史研究会のような、地域の活動団体への周知活動を検討。
- 5 その他
 - ・平成二九年一〇月三十一日を以て審議会委員全員の任期が終了となるため、第二回市史編さん審議会の開催前に再度委嘱及び任命を実施することを説明。
- 6 閉会

常陸大宮市史編さん委員会

〈平成二八年度〉

○第一回市史編さん委員会（平成二八年八月八日）

会場：常陸大宮市役所本庁 行政委員会室
〈議事内容〉

※開会前、市史編さん委員八名に委嘱状及び任命状を交付

- ・高橋 修委員 (茨城大学 人文学部 教授)
- ・添田 仁委員 (茨城大学 人文学部 准教授)
- ・佐々木 啓委員 (茨城大学 人文学部 准教授)
- ・鈴木 素行委員 (公益財団法人 ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社 文化財調査事務所長)
- ・大津 忠男委員 (茨城県立歴史館 史料学芸部長)
- ・桐原 幸一委員 (茨城生物の会 事務局長)
- ・佐藤 浩之委員 (常陸大宮市役所 政策審議官)
- ・山崎 俊夫委員 (常陸大宮市役所 総務部長)

1 開会

2 市長あいさつ

3 市史編さん委員及び事務局員の自己紹介

4 議事

①委員長、副委員長の選出

・高橋修委員を委員長、佐藤浩之委員を副委員長に選出。

②市史編さん事業の経緯について

③専門部会の立ち上げについて

・専門調査員及び協力員の人数については、六つの部会（考古部会
古代・中世史部会、近世史部会、近現代史部会、民俗部会、自然部会）ごとに、それぞれ部会長一名、専門調査員五名、協力員五名と定める。

※ただし、自然部会のみ、生物分野／地質分野に分かれるため、多少の人員増加については許可。

④平成二八、二九年度の事業計画について

・市史編さんの刊行スケジュールや、旧自治体刊行の調査報告書等

について説明、議論を実施。

・「常陸大宮市史」の中で部会ごとに取り上げるべき特徴や、部会間で協議すべき懸案事項について考えを持ち寄り、次回報告。

5 その他

6 閉会

○第二回常陸大宮市史編さん委員会（平成二八年九月二六日）

会場…常陸大宮市役所本庁 二〇一会議室

〈議事内容〉

1 開会

2 委員長あいさつ

3 報告

・専門調査員及び協力員の委嘱に関する進捗状況を報告。

4 議事

①常陸大宮市史編さん基本方針について

②市史編さんの共通テーマについて

・部会長ごとに、部会間で共通するような項目について発表し、議論を実施。

③部会ごとの今年度及び来年度の活動計画について

④部会間で調整が必要な事項について

・考古部会と中世史部会（石造物、城址、遺物について）、近世史部会と近現代史部会（地方美術）、自然部会と他部会（石材等）など。

⑤市史編さんにおける教育普及活動について

・「市史編さんだより」の連載（広報常陸大宮）、観察会やワークショップ、講演会等のイベントについて検討。

5 その他

6 閉会

〈平成二九年度〉

○第一回常陸大宮市史編さん委員会（平成二九年四月二四日）

会場・常陸大宮市歴史民俗資料館 講座室

〈議事内容〉

※開会前、退職となった山崎俊夫氏を委員から解職し、新たに一名を
委員会委員として任命。

・坂井 秀規委員（常陸大宮市役所 総務部長）

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 報告
 - ・ 専門調査員及び協力員の委嘱状況、事業経過、平成二九年度の購入物品等について報告。
- 4 議事
 - ①各部会の今年度活動計画について
 - ・ 専門部会活動を本格始動させるにあたり、各部会が担当する範囲の確認、刊行する資料編の体裁、報告書等の刊行について議論を実施。
 - ②「市史研究」刊行について
 - ・ 編集方針の検討及び、創刊企画（座談会）に関する議論を実施。
 - ③教育普及活動とボランティア組織について
 - ・ ボランティア組織の在り方、活動内容に関する検討、議論を実施。
 - 5 その他
 - 6 閉会

○第二回常陸大宮市史編さん委員会（平成二九年一〇月二日）

会場・常陸大宮市役所本庁 議会委員会室一

〈議事内容〉

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 報告
 - ・ 専門調査員及び協力員の委嘱状況や、各部会の進捗状況について報告。
- 4 議事
 - ①資料編の体裁について
 - ・ 各部会が想定する資料編の体裁（判型、色、文字の組み方等）について意見を共有し、議論を実施。
 - ②『常陸大宮市史研究』について
 - ・ 今年度の掲載原稿及びスケジュールと、来年度の企画に関して議論を実施。
 - ③市史編さん事業への協力団体について
 - ・ 過去の旧町村史編さん事業に携わった人物や、常陸大宮市の歴史に関する見識が深い人物など、調査協力者の人選及び委嘱方法について検討。
 - ④教育普及活動について
 - ・ 事業PRや今後の活動に関する議論を実施。
 - 5 その他
 - 6 閉会

常陸大宮市史編さん委員会 専門部会

①専門部会員構成(平成三〇年一月一日現在)

考古部会(部会長一名、専門調査員五名、協力員五名)

〈部会長〉

鈴木 素行

(公益財団法人 ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社
文化財調査事務所長)

〈専門調査員〉

宇留野 主税

(桜川市教育委員会 生涯学習課 副主査)

佐々木 義則

(公益財団法人 ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社
文化財調査事務所 課長補佐)

塚本 師也

(公益財団法人 とちぎ未来づくり財団 副主幹)

橋本 勝雄

(公益財団法人 千葉県教育振興財団 上席文化財主事)

萩野谷 悟

(常陸大宮市教育委員会 文化スポーツ課 嘱託職員)

〈協力員〉

飯島 一生

(水戸市立稲荷第一小学校 教頭)

稲田 健一

(公益財団法人 ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社
文化財調査事務所 係長)

江原 美奈子

(公益財団法人 茨城県教育財団 次席調査員)

小澤 重雄

(茨城県立歴史館 史料学芸部 学芸課長)

中村 信博

(茂木町教育委員会 生涯学習課 埋蔵文化財調査員)

古代・中世史部会(部会長一名、専門調査員五名、協力員二名)

〈部会長〉

高橋 修

(茨城大学 人文社会科学部 教授)

〈専門調査員〉

佐々木 倫朗 (大正大学 文学部 教授)

長谷部 将司 (茨城高等学校・茨城中学校 教諭)

森木 悠介 (東海村立図書館 嘱託司書)

山縣 創明 (茨城県立水戸第一高等学校 教諭)

山川 千博 (大田原市教育委員会 文化振興課 主任学芸員)

〈協力員〉

比毛 君男 (土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場 主査)

前川 辰徳 (茨城大学人文社会科学部補助金研究員)

近世史部会(部会長一名、専門調査員四名、協力員五名)

〈部会長〉

添田 仁 (茨城大学 人文社会科学部 准教授)

〈専門調査員〉

坂本 達彦 (國學院大學栃木短期大学 日本文化学科 准教授)

千葉 真由美 (茨城大学 教育学部 准教授)

永井 博 (茨城県立歴史館 史料学芸部長)

平野 哲也 (常磐大学 人間科学部 准教授)

〈協力員〉

天野 真志 (国立歴史民俗博物館 研究部 特任准教授)

大内 正臣 (茨城県立真壁高等学校 教諭)

川上 真理 (法政大学 非常勤講師)

笹目 礼子 (茨城県立歴史館 史料学芸部 歴史資料課長)

武子 裕美 (国文学研究資料館 事務補佐員)

近現代史部会(部会長一名、専門調査員四名、協力員二名)

〈部会長〉

佐々木 啓 (茨城大学 人文社会科学部 准教授)

〈専門調査員〉

石井 裕 (茨城県立歴史館 史料学芸部 歴史資料課 主任研究員)

佐藤 美弥 (埼玉県立文書館 学芸員)

畠田 修 (早稲田大学 大学史資料センター 助手)

清水 ゆかり (茨城県農業総合センター 農業研究所 作物研究室 研究嘱託員)

〈協力員〉

飯塚 彬 (法政大学大学院 人文科学研究科 博士課程)

棚井 仁 (東京大学大学院 経済学研究科 博士課程)

民俗部会 (部会長一名、専門調査員四名)

〈部会長〉

大津 忠男 (茨城県立歴史館 史料学芸部 学芸課 首席研究員)

〈専門調査員〉

田中 伸吾 (茨城県立歴史館 史料学芸部 学芸課 学芸員)

萩谷 良太 (土浦市教育委員会 文化課 学芸員)

林 圭史 (茨城県立歴史館 史料学芸部 学芸課 副主任学芸員)

渡瀬 綾乃 (常陸大宮市教育委員会 文化スポーツ課 嘱託職員)

自然部会 (部会長一名、専門調査員六名、協力員四名)

〈部会長〉

桐原 幸一 (茨城生物の会、常陸大宮市文化財保護審議委員)

〈専門調査員／生物分野〉

稲葉 修 (南相馬市博物館 学芸員)

佐々木 泰弘 (茨城県立太田第一高等学校 教諭)

仲田 立 (茨城生物の会、元水戸市立博物館長)

藤田 弘道 (茨城生物の会、元教員)

〈専門調査員／地質分野〉

菊池 芳文 (理学博士)

八田 珠郎 (千葉科学大学 危機管理学部 教授)

〈協力員／生物分野〉

有賀 俊司 (茨城県立高萩高校 教諭)

中崎 保洋 (茨城生物の会)

渡邊 健 (茨城県農業試験所長)

〈協力員／地質分野〉

菊池 美波 (千葉科学大学 危機管理学部 研究補助職員)

② 専門部会活動記録

考古部会

○第一回考古部会 (平成二八年一月二日)

会場：常陸大宮市役所本庁 二〇一会議室

〈議事内容〉

① 調査協力員について

・写真撮影を担当する方を協力員として委嘱する方向で検討。

② 平成二八年度、二九年度活動計画について

③ 資料編の体裁と入稿について

・刊行する資料編の体裁 (判型、段組、紙質、印刷等) について検討。

○第二回考古部会 (平成二九年七月一日)

会場：常陸大宮市役所本庁 三〇二会議室

〈議事内容〉

① 市域における遺跡の概要、資料化の現状と課題

- ・旧石器／縄文／弥生／古墳／奈良・平安の分野ごとに、刊行までのスケジュール案を報告。
- ②協力員について
- ・縄文、古墳の分野を専門とする協力員を委嘱する方向で検討。
- ③今後のスケジュールについて

古代・中世史部会

○第一回古代・中世史部会 (平成二九年二月一二日)

会場・茨城大学図書館 セミナールーム

〈議事内容〉

- ①資料編の編さん方針について
- ・各調査員の担当範囲について意見交換・共有を実施。
- ・資料編の編さん方針 (史料収集、図版及び解説の掲載) について議論。

○第二回古代・中世史部会 (平成二九年一月一九日) ※前半

会場・茨城大学図書館

〈議事内容〉

- ①資料目録の仮提出
- ②採録方針の再検討
- ・各調査員の担当範囲ごとに、常陸大宮市あるいは佐竹氏に関わる史料をリスト化し、その掲載方法等について検討・議論を実施。

○第二回古代・中世史部会 (平成二九年一月一六日) ※後半

会場・茨城大学図書館

〈議事内容〉

- ①資料目録の仮提出

②採録方針の再検討

- ・各調査員の担当範囲ごとに、常陸大宮市あるいは佐竹氏に関わる史料をリスト化し、その掲載方法等について検討・議論を実施。

近世史部会

○第一回近世史部会 (平成二九年二月六日)

会場・茨城大学人文社会科学部A棟 二一四号室

〈議事内容〉

- ①全体の構成イメージと担当分野について
- ・各調査員の担当分野を決定。(領主の支配と政治のしくみ／村や町のしくみと民衆の動き／生産と流通と消費／自然環境と資源／人びとのくらしと文化)
- ・資料編の構成イメージに関する議論を実施。
- ②資料調査の進め方について
- ・市内の未整理・未把握資料の調査に関する議論を実施。

○第二回近世史部会 (平成二九年五月二一日)

会場・茨城大学人文社会科学部A棟 二〇五号室

〈議事内容〉

- ①全体の構成イメージと担当分野について
- ・資料編の体裁 (判型、段組ほか) に関する議論を実施。
- ・前回部会で決めた担当分野ごとに、特筆すべき点を報告。
- ②近世史部会の調査・研究について
- ・旧自治体史の研究
- ・調査合宿・フィールドワーク
- ・資料調査の進め方
- ・平成二九年度の近世史部会

○第三回近世史部会（平成二九年一月一五日）

会場・茨城大学人文社会科学部A棟 二〇八号室

〈議事内容〉

- ①年表の確認・共有
- ・旧町村史等を基に、担当分野に沿った近世史年表を作成し、報告及び議論を実施。
- ②今後の調査・研究方針の検討
- ・平成三〇年度の活動について検討。

近現代史部会

○第一回近現代史部会（平成二八年一月一〇日）

会場・常陸大宮市歴史民俗資料館 講座室

〈議事内容〉

- ①全体の構成イメージと担当分野について
- ・各調査員の担当分野を決定し、（政治史関係／経済史関係／文化史関係／教育史関係／軍事史関係）資料編の編さん方針について議論を実施。
- ②資料調査の進め方について
- ・産業組合、農協・銀行関係資料、在郷軍人会・遺族会・傷痍軍人関係資料、教育関係資料、新聞、雑誌等の所在調査を実施する方針で検討。

○第二回近現代史部会（平成二九年三月二六日）

会場・茨城大学人文社会科学部A棟 三一八室（佐々木研究室）

〈議事内容〉

- ①作成年表の報告及び議論

- ・第一回近現代史部会で決まった担当分野ごとに、旧町村史を基に年表を作成し、報告及び議論を実施。

○第三回近現代史部会（平成二九年六月三日）

会場・茨城大学人文社会科学部A棟 三一八室（佐々木研究室）

〈議事内容〉

- ①作成年表の報告及び議論
- ・第二回近現代史部会の議題を継続して実施。

○第四回近現代史部会（平成二九年一月二八日）

会場・茨城大学人文社会科学部A棟 三一八室（佐々木研究室）

〈議事内容〉

- ①構成案の検討について
- ・近現代史編の目次、構成案について各部会員が発表を行い、その後で議論を実施。

民俗部会

○第一回民俗部会（平成二九年三月二七日）

会場・常陸大宮市歴史民俗資料館

〈議事内容〉

- ①基本方針及び内容について
- ・民俗編の方針と内容について検討。
- ②活動計画（平成二九年度）
- ・統計資料や国勢調査等から特筆すべき産業等を抽出し、調査地を選定することを検討。
- ・祭礼行事の調査計画について議論。

○第二回民俗部会 (平成二九年五月一四日)

会場・茨城県立歴史館 講座室

〈議事内容〉

①平成二九年度第一回市史編さん委員会の報告

・『常陸大宮市史研究』の刊行予定を事務局から説明し、執筆者を打診。

②年中行事調査について

・部会長より、既存の祭礼・行事調査等で指標となる行事や、数年に一度の祭礼、現状の把握が必要なものを優先的に調査することが提案され、それに関する議論を実施。

③現地調査について

・調査地や話者、統計資料(農林業センサスデータ等)に関する議論を実施。

○第三回民俗部会 (平成二九年一〇月九日)

議事内容

①報告

②調査進捗状況報告

・今年度の調査予定に関する確認と、次年度の調査希望行事、報告書執筆について検討。

③平成三〇年度民俗調査計画案及び予算検討

・国勢調査をもとにした人口、世帯、産業の統計表について報告、議論を実施。

自然部会「生物分野」

○第一回自然部会「生物分野」(平成二八年一二月四日)

会場・常陸大宮市役所本庁 二〇四会議室

〈議事内容〉

①活動計画打ち合わせ

・合同調査の日程及び場所について検討。

・調査に伴う許可申請について報告。

・自然編の体裁等について議論を実施。

○第二回自然部会「生物分野」(平成二九年四月二九日)

会場・常陸大宮市内

〈議事内容〉

①資料編に関する協議

・自然編の体裁(判型、内容、ページ数、文体等)に関する打ち合わせを実施。

○第三回自然部会「生物分野」(平成二九年五月二一日)

会場・常陸大宮市内

〈議事内容〉

①調査スケジュールについて

・平成二九年度予算案(平成二九年度第一回市史編さん委員会にて報告)をもとに、担当分野ごとの調査スケジュールを検討。

②資料編に関する協議

・第二回自然部会からの継続審議(体裁、文体等)

○第四回自然部会「生物分野」(平成二九年七月九日)

会場・常陸大宮市内

〈議事内容〉

①調査用品の配布

・各調査員に調査用品(管ビン、捕虫網、三角紙等)を配布。

- ② 『常陸大宮市史研究』執筆について
・後日事務局と協議。(第五回自然部会)

○第五回自然部会「生物分野」(平成二九年八月二四日)

- ① 『常陸大宮市史研究』執筆について↓事務局と意見の統一を図る。
・今年度及び来年度の執筆者を打診。
② 今後の活動について
・野鳥観察会(十一月二六日実施)に関する協議。

自然部会「地質分野」

○第一回自然部会「地質分野」(平成二八年二月一九日)

会場：千葉科学大学

〈議事内容〉

- ① 調査方針等の協議(地形・地質・岩石・鉱物)

○第二回自然部会「地質分野」(平成二九年一月二〇日)

会場：千葉科学大学

〈議事内容〉

- ① 分析方法の検討(岩石・鉱物誌料の予備分析)
- ② 調査方針及び日程等の協議
- ③ 試験的解析実験

○第三回自然部会「地質分野」(平成二九年三月六日)

会場：千葉科学大学

〈議事内容〉

- ① 調査のまとめと今後の課題の検証
- ② 採集試料の分析

○第四回自然部会「地質分野」(平成二九年一月三〇日)
会場：千葉科学大学

〈議事内容〉

- ① 今後の調査方針に関する協議
- ② 分析試料及び分析結果の活用に関する協議

常陸大宮市史編さん事務局関連行事

〈平成二八年度〉

○常陸大宮市史編さん委員会全体会(平成二九年三月一日)

会場：常陸大宮市内(辰ノ口地区、諸沢地区、高部地区、鷲子地区、

小舟地区、長倉地区、北塩子地区、小場地区ほか)

〈事業内容〉

- ・常陸大宮市史編さんの本格的な調査を始めるにあたり、各専門部会員を対象に、地理や景観等の把握、各部会間の連携と親睦を図るため、市内の視察を実施。

〈参加人数〉

- ・専門部会員、事務局員合わせて三三名

〈平成二九年度〉

○ふるさと再発見☆ウォーキング ～大宮の城址巡り編～(平成二九年

九月二三日)

〈事業内容〉

- ・平成二九年一〇月に国指定史跡となった泉坂下遺跡や、大宮三城(前小屋城跡、宇留野城跡、部垂城跡)を巡るウォーキングを実施。

〈参加人数〉

- ・参加者、事務局員合わせて三八名

〈講師（市史編さん関連）〉

- ・前川 辰徳氏（古代・中世史部会協力員）：前小屋城跡、宇留野城跡、部垂城跡の現地解説を担当。

○御前山 野鳥観察とノルディックウォーキング（平成二九年一月二六日）

〈事業内容〉

- ・御前山ダム周辺を一周するノルディックウォーキングを行うと同時に、ダムに生息する水鳥の観察を実施。

〈参加人数〉

- ・参加者、事務局員合わせて八六名

〈講師（市史編さん関連）〉

- ・仲田 立氏（自然部会専門調査員）：御前山ダムに生息する野鳥観察及び解説を担当。

寄贈資料について

○渡邊明氏寄贈資料（考古資料）

〈寄贈点数〉※平成二九年一月三二日まで

- ・石鏃、磨製石斧、土偶、縄文土器、石製垂飾ほか六九〇〇点

平成二九年四月以降、小野天神前遺跡、野上槻遺跡、中崎遺跡など、市内に所在する遺跡で採集した考古資料六九〇〇点が常陸大宮市史編さん事務局へ寄贈されている。なお、今号収録の「渡邊明氏採集の常陸大宮市内考古資料（予報）」（萩野谷執筆）にて、寄贈資料の一部を紹介している。

○地殿神社石棒（東野地区）

〈寄贈点数〉

- ・石棒（縄文時代）一点

平成二九年一二月、地殿神社境内に所在する石棒一点が倒れたまま放置されているとの通報を受け、東野地区長、地殿神社氏子総代表、地殿神社宮司の三名と共に現地を確認。その後、盗難のおそれがあることから、市史編さん事務局へ寄贈となった。

専門部会 調査活動まとめ

考古部会

〔平成二九年度〕

5・16	首藤保之助資料調査（須賀川市立博物館）	9・15	鷹巣河合台遺跡出土資料調査（中橋長太郎氏採集）	8・2	佐竹氏関連史料調査	
5・19	坪井上遺跡資料調査 （旧大場小学校、旧伊勢畑小学校）	9・16	文獻調査（国立国会図書館）	8・7	佐竹氏関連史料調査	
6・1	坪井上遺跡資料調査（旧大場小学校）	9・20	小祝地区出土資料調査	8・8	佐竹氏関連史料調査	
6・6	拓本採取、実測図作成指導（旧大場小学校）	9・26	中台遺跡資料調査	8・14	佐竹氏関連史料調査	
6・6	小野天神前遺跡資料調査（茨城県立歴史館）	10・7	鷹巣河合台遺跡資料調査 （茨城県立歴史館所蔵）撮影	8・15	佐竹氏関連史料調査	
6・23	坪井上遺跡出土資料調査（旧大場小学校）	10・10	中台遺跡出土土器（茨城県立歴史館所蔵）撮影	8・16	佐竹氏関連史料調査	
7・5	渡邊明氏寄贈資料調査	10・14	渡邊明氏採集資料の分類・選別、実測資料抽出	8・21	佐竹氏関連史料調査	
7・6	小野天神前遺跡資料調査（茨城県立歴史館）	10・15	中台遺跡資料調査	9・18	佐竹氏関連史料調査	
7・12	野上槻遺跡採集資料（渡邊明氏寄贈）調査	10・23	三美中道遺跡採集資料調査（渡邊明氏寄贈）	9・24	佐竹氏関連史料調査	
7・15	野口平盆能遺跡採集資料（渡邊明氏寄贈）調査	10・30	三美中道遺跡採集資料調査（渡邊明氏寄贈）	10・9	佐竹氏関連史料調査	
7・16	中崎遺跡、山方遺跡及び古宿遺跡採集資料（渡邊明氏寄贈）調査	11・3	野上公雄氏・中橋長太郎氏所有遺物、泉坂下遺跡出土遺物の撮影	10・27	佐竹氏関連史料調査	
8・2	中台遺跡資料調査（茨城県立歴史館寄託資料）	11・4	中台遺跡出土資料調査	11・11	佐竹氏関連史料調査	
8・3	中台遺跡資料調査（茨城県立歴史館寄託資料）	11・6	野上槻遺跡採集資料調査（渡邊明氏寄贈）	11・12	佐竹氏関連史料調査	
8・4	中台遺跡資料調査（茨城県立歴史館寄託資料）	11・8	野上槻遺跡採集資料調査（渡邊明氏寄贈）	11・22	佐竹氏関連史料調査	
8・5	中台遺跡資料調査（茨城県立歴史館寄託資料）	11・14	野上槻遺跡採集資料調査（渡邊明氏寄贈）	11・25	佐竹氏関連史料調査	
8・6	中台遺跡資料調査（茨城県立歴史館寄託資料）	11・17	野上槻遺跡採集資料調査（渡邊明氏寄贈）	12・26	佐竹氏関連史料調査	
8・12	資料の分類、選別及び抽出作業	11・17	文獻調査（常陸大宮市歴史民俗資料館）	12・8	佐竹氏関連史料調査	
8・13	小祝地区採集資料（尖頭器）調査	11・17	☆古代・中世史部会 〔平成二九年度〕	12・11	佐竹氏関連史料調査	
8・14	古宿遺跡採集資料（打製石斧）調査	7・1	佐竹氏関連史料調査	12・12	佐竹氏関連史料調査	
8・23	野上槻遺跡採集資料（渡邊明氏寄贈資料）調査	7・3	佐竹氏関連史料調査	12・22	佐竹氏関連史料調査	
8・28	中台遺跡資料調査（茨城県立歴史館寄託資料）	7・4	佐竹氏関連史料調査	12・29	小田野城跡縄張調査及び周辺文化財の所在調査（小田野地区）	
9・2	小祝地区出土資料調査（野上公雄氏採集）	7・8	佐竹氏関連史料調査	12・31	小田野城跡縄張調査（小田野地区）	
9・3	小祝地区出土資料調査（野上公雄氏採集）	7・10	佐竹氏関連史料調査	近世史部会 〔平成二九年度〕	10・13	市内近世史関連史料の調査（常陸大宮市文書館）
9・5	中台遺跡資料調査（茨城県立歴史館寄託資料）	7・11	佐竹氏関連史料調査	11・18	文獻調査（生産・流通・産業など）	
		7・16	佐竹氏関連史料調査	12・3	文獻調査（文化・民俗）	
		7・17	佐竹氏関連史料調査	12・4	文獻調査（文化・民俗・産業など）	

12・10 文献調査(文化・民俗)
 12・11 現地調査(小瀬一揆関連、常陸大宮市内)

近現代史部会

〔平成二九年度〕

5・24 小瀬一揆に関する調査(常陸大宮市文書館ほか)
 12・11 現地調査(小瀬一揆関連、常陸大宮市内)

民俗部会

〔平成二九年度〕

7・3 民俗調査(諸沢地区、北富田地区、久隆地区)
 7・29 素鷲神社祇園祭調査(素鷲神社―大宮市街地)
 8・8 民俗調査(山方地域)
 8・16 六字様調査(高部地区三ツ木集落)
 8・20 六字様調査(小舟地区前屋、大貝集落、大岩地区、
 上小瀬地区、高部地区大貝集落)

10・1 山の神行事調査(鷲子地区中嶋集落)
 10・17 民俗調査(諸沢地区)
 11・4 妙蓮寺のお会式調査(檜山地区、妙蓮寺)
 11・5 妙蓮寺のお会式調査(檜山地区、妙蓮寺)
 11・10 民俗調査(諸沢地区、西金砂神社)
 11・12 家屋調査、山車調査(高部地区)
 11・18 夜祭調査(鷲子山上神社)
 12・7 西金砂神社オシメオロシ祭調査(西金砂神社)
 12・12 西金砂神社秋季例大祭調査(西金砂神社)
 12・13 西金砂神社十二合祭調査(西金砂神社)

自然部会「生物分野」

〔平成二八年度〕

11・23 鳥類調査(諸沢地区、家和楽地区ほか)
 12・7 鳥類調査(久隆地区ほか)

12・17 鳥類調査(上伊勢畑地区)
 12・23 鳥類調査(照山地区、上村田地区ほか)
 1・13 鳥類調査(久隆地区、盛金地区ほか)
 1・18 鳥類調査(照山地区)
 2・20 鳥類調査(上村田地区)
 2・27 魚類調査(上大賀地区、小祝地区)
 2・28 水生生物調査(諸沢地区、北富田地区)
 3・3 鳥類調査(諸沢地区)
 3・25 植物調査(鷲子地区、小田野地区、高部地区)
 3・26 水生生物調査(辰ノ口地区、小祝地区)
 3・27 魚類調査に関する情報収集ほか(久慈川漁業協同組合、那珂川漁業協同組合)

〔平成二九年度〕

4・1 両生類調査(照田地区)
 4・2 両生類調査(照田地区)
 4・3 植物調査(山方地域)
 4・8 魚類・両生類調査(上大賀地区、野上地区)
 4・9 魚類・両生類・爬虫類調査(野上地区、氷之沢地区、
 高部地区)
 4・10 魚類・両生類調査(諸沢地区、野田地区、秋田地区)
 4・12 鳥類調査(照山地区)
 4・14 植物調査(緒川地域、美和地域)
 4・19 鳥類調査(辰ノ口地区)
 4・21 鳥類調査(上村田地区)
 4・22 植物調査(緒川地域)
 4・25 鳥類調査(久隆地区、家和楽地区ほか)
 4・29 哺乳類・両生類調査(大岩地区、鷲子地区ほか)
 植物調査(御前山地域)
 5・30 魚類・両生類調査(下伊勢畑地区、三美地区)
 5・3 鳥類調査(照山地区)
 5・5 植物調査(下伊勢畑地区、野田地区、上小瀬地区)
 5・6 鳥類調査(辰ノ口地区、宇留野地区ほか)
 哺乳類・両生類調査(小舟地区)
 5・11 鳥類調査(諸沢地区)
 5・12 植物調査(氷之沢地区、下檜沢地区)
 5・19 鳥類調査(上村田地区)
 5・27 植物調査(辰ノ口地区、照山地区)
 5・28 植物調査(鷲子地区、上小瀬地区)
 5・30 鳥類調査(盛金地区、家和楽地区ほか)
 6・3 植物調査(上伊勢畑地区、下伊勢畑地区、金井地
 区、長倉地区)
 6・14 鳥類調査(辰ノ口地区)
 6・15 植物調査(檜山地区、千田地区)
 6・19 植物調査(高部地区)
 6・23 鳥類調査(久隆地区、家和楽地区ほか)
 6・24 植物調査(鷲子地区)
 7・3 鳥類調査(上村田地区)
 7・8 鳥類調査(照山地区)
 7・9 鳥類調査(辰ノ口地区)
 7・11 植物調査(上小瀬地区、小瀬沢地区)
 7・12 植物調査(小倉地区)
 7・17 鳥類調査(諸沢地区)
 7・19 植物調査(高部地区、下檜沢地区)
 7・21 鳥類調査(盛金地区、久隆地区、家和楽地区)
 7・24 鳥類調査(上村田地区、宇留野地区)
 7・26 植物調査(長倉地区、中居地区、国長地区)
 7・29 爬虫類・両生類調査(照田地区)
 8・1 植物調査(根本地区、宇留野地区、小倉地区ほか)
 8・4 植物調査(小場地区・鷹巣地区・小祝地区)
 8・8 植物調査(小田野地区、小舟地区)

専門部会 調査活動まとめ

10・23	植物調査(照山地区、西野内地区)				
10・18	植物調査(長倉地区)				
10・16	植物調査(上小瀬地区、北塩子地区、長田地区)				
10・11	鳥類調査(諸沢地区)				
10・8	植物調査(小場地区、三美地区、野口地区)				
10・6	植物調査(下伊勢畑地区)				
10・5	鳥類調査(辰ノ口地区、根本地区)				
10・4	鳥類調査(照山地区)				
10・2	植物調査(油河内地区、千田地区、中居地区)				
9・29	植物調査(小瀬沢地区、小舟地区、上小瀬地区)				
9・28	鳥類に関する調査(上村田地区)				
9・25	鳥類調査(盛金地区、久隆地区、家和楽地区)				
9・21	植物調査(上伊勢畑地区、野田地区)				
9・19	植物調査(野田地区)				
9・14	鳥類調査(諸沢地区)				
9・10	植物調査(鷺子地区)				
9・9	鳥類調査(辰ノ口地区、根本地区)				
9・8	爬虫類・両生類調査(鷺子地区、小舟地区)				
9・5	鳥類調査(常陸大宮市内)				
8・30	植物調査(東野地区、門井地区)				
8・29	鳥類調査(盛金地区、久隆地区、家和楽地区ほか)				
8・26	鳥類調査(上村田地区)				
8・24	植物調査(下伊勢畑地区)				
8・22	植物調査(盛金地区、北富田地区、諸沢地区)				
8・21	水生生物調査(上大賀地区、小祝地区)				
8・19	鳥類調査(諸沢地区)				
8・17	鳥類調査(辰ノ口地区、根本地区ほか)				
8・10	鳥類調査(照山地区)				
8・9	植物調査(大岩地区)				
10・25	鳥類調査(盛金地区、久隆地区、家和楽地区)				
10・27	鳥類調査(上村田地区)				
10・28	両生類調査(小倉地区、辰ノ口地区、照山地区)				
10・29	魚類調査(上大賀地区)				
10・31	植物調査(下檜沢地区、盛金地区)				
11・7	鳥類調査(照山地区、根本地区ほか)				
11・10	植物調査(野田地区、秋田地区)				
11・13	鳥類調査(諸沢地区)				
11・16	鳥類調査(諸沢地区)				
11・17	鳥類調査(上村田地区)				
11・26	魚類・両生類調査(小田野地区、鷺子地区)				
12・7	鳥類調査(照山地区)				
12・12	鳥類調査(辰ノ口地区、根本地区)				
12・15	植物調査(長沢地区、照田地区、野上地区ほか)				
12・19	鳥類調査(諸沢地区)				
12・21	鳥類調査(盛金地区、久隆地区、家和楽地区ほか)				
12・26	植物調査(富岡地区、小倉地区、塩原地区、辰ノ口地区、鷹巣地区、泉地区ほか)				
12・28	鳥類調査(上村田地区)				
12・30	魚類調査(辰ノ口地区、岩崎地区、小貫地区)				
12・31	魚類調査(氷之沢地区、小田野地区、鷺子地区、松之草地区)				
12・3	地質調査(下伊勢畑地区、長倉地区、千田地区、入本郷地区、油河内地区)				
12・13	採集資料の解析ほか(千葉科学大学)				
12・14	採集標本の写真撮影				
12・17	地質調査(盛金地区、家和楽地区)				
11・3	地質調査(盛金地区)				
7・31	採集資料の解析ほか(千葉科学大学)				
9・5	地質調査(御前山地域、緒川地域)				
9・11	採集資料の解析ほか(千葉科学大学)				
9・25	地質調査(上伊勢畑地区)				
10・20	地質調査(諸沢地区)				
11・2	地質調査(諸沢地区)				
6・4	地質調査(美和地域)				
5・5	地質調査(美和地域)				
5・25	地質調査(盛金地区)				
6・13	地質調査(盛金地区、家和楽地区)				
6・19	採集資料の解析ほか(千葉科学大学)				
6・22	地質調査(家和楽地区、諸沢地区)				
7・7	地質調査(家和楽地区)				
7・17	採集資料の解析ほか(千葉科学大学)				
7・24	採集資料の解析ほか(千葉科学大学)				
7・25	地質調査(盛金地区)				

自然部会 「地質分野」

〔平成二八年度〕

- 1・21 地質調査(諸沢地区)
- 1・26 地質調査(美和地域)
- 2・19 地質調査(盛金地区、久隆地区)
- 2・20 地質調査(諸沢地区)
- 2・25 地質調査(諸沢地区)

〔平成二九年度〕

- 5・4 地質調査(美和地域)
- 5・5 地質調査(美和地域)
- 5・25 地質調査(盛金地区)
- 6・13 地質調査(盛金地区、家和楽地区)
- 6・19 採集資料の解析ほか(千葉科学大学)
- 6・22 地質調査(家和楽地区、諸沢地区)
- 7・7 地質調査(家和楽地区)
- 7・17 採集資料の解析ほか(千葉科学大学)
- 7・24 採集資料の解析ほか(千葉科学大学)
- 7・25 地質調査(盛金地区)
- 9・5 地質調査(御前山地域、緒川地域)
- 9・11 採集資料の解析ほか(千葉科学大学)
- 9・25 地質調査(上伊勢畑地区)
- 10・20 地質調査(諸沢地区)
- 11・2 地質調査(諸沢地区)
- 12・3 地質調査(下伊勢畑地区、長倉地区、千田地区、入本郷地区、油河内地区)
- 12・13 採集資料の解析ほか(千葉科学大学)
- 12・14 採集標本の写真撮影
- 12・17 地質調査(盛金地区、家和楽地区)

常陸大宮市史編さんだより Vol.15 Vol.18

『広報 常陸大宮』平成二八年九月〜平成三〇年二月掲載

常陸大宮市史編さん事業本格始動にともない、『広報 常陸大宮』への「市史編さんだより」の連載を開始した。

―市史編さん、はじまります―

常陸大宮市史編さん事務局

平成二八年八月八日、市役所で第一回常陸大宮市史編さん委員会が開催され、三次市長から委嘱状及び任命状が交付されました。ここに、市史編さん事業は本格的にスタートしました。

合併一〇周年を契機に動き出したこの事業は、市内全地域をあらゆる角度から再発見・再評価しようとするもので、ふるさとへの愛着と誇りを育み、市の一体化を推進する「新たな「まちづくり」」の基礎となることを目指します。

また、市史を作るにあたって、新たに編さん委員会が設置されました。①考古、②古代・中世史、③近世史、④近現代史、⑤民俗、⑥自然の六部会で構成され、茨城大学の高橋修教授（古代・中世史）を委員長とする専門委員六人が各部会長として就任しました。

今後、各部会を中心に調査が進められますが、詳細な調査を実施していくためには、市民の皆さまのお力添えがなくてはなりません。よりよい「常陸



▲委嘱状を渡す三次市長(右)と高橋委員長(左)

大宮市史」を作っていくために、ご協力をお願いします。

―市史編さんだよりVol.1(平成二八年九月号掲載)

―自治体史編さんの意味―

常陸大宮市史編さん事務局

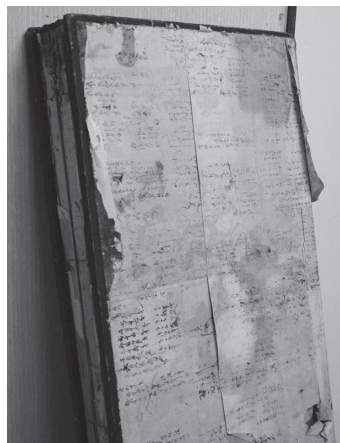
〈新しい「市史」をつくる〉

「市史」「町史」「村史」という、いわゆる自治体史は、自分たちの住む土地がどのような歴史をたどってきたかを知る貴重な資料です。常陸大宮市では、かつて旧町村ごとに自治体史が作られていましたが、中には刊行から四〇年近く経過しているものもあり、最新の調査成果が反映できていません。

新たに編さんされる「常陸大宮市史」では、近年発見された資料や研究の成果を盛り込むと共に、他地域との関係を広い視点で捉えながら、みなさんと一緒に新しい市史を作ることを目指します。

〈意外と身近な場所にある「文化」〉

普段は気づきにくいかもしれませんが、常陸大宮市には、貴重な歴史資料や史跡が数多く残されているほか、古くから伝わる文化や伝承も豊富です。しかし、それらの中には、時間の経過とともに忘れ去られつつあるものや、既に失われてしまったものも存在します。みなさんが幼いころから慣れ親しんだ言い伝えや行事、あるいは自宅に眠った



▲すまや屏風の裏に古文書が貼られていることもあります

ままの史料など、意外と身近なところにそういった文化は存在します。市史編さん事業は、先人たちによって紡がれてきた歴史や伝統を見直し、光をあてる事業でもあります。祖先や私たちの誇りを未来へ引き継ぎながら、新たな常陸大宮市の礎を築いていくために、ご協力をよろしく願います。

市史編さんだよりVol.2(平成二八年一〇月号掲載)

―今後の展開に向けて―

常陸大宮市史編さん事務局

〈第二回市史編さん委員会が開かれました〉

九月二六日(月)、第二回常陸大宮市史編さん委員会が開催されました。委員会では、本市の特徴や、特筆すべき歴史について六つの部会がそれぞれ報告を行い、その後、全体の共通テーマを検討すべく話し合いが行われました。特に、河川や山林などを利用した文化・産業や、周辺地域との関係性について多くの議論が交わされました。

また、市史編さん事業をアピールするため、市の歴史を題材にした講演会や動植物の観察会など、子どもからお年寄まで参加できるような事業を実施してはどうかという提案もありました。具体的にどのような事業を開催するかは来年以降のお楽しみです。市民のみならずも市史編さん事業に参加していただき、多くの方々に親しまれる「常陸大宮市史」をめざします。

〈今後のお知らせ〉

今回で第三回を迎えた「市史編さんだより」ですが、次回からは、市史編さんの中心となる各部会長の方々に自己紹介を兼ねた一文を書いていた予定です。「常陸大宮市」の知られざる一面を紹介し

ていたかもしれません。

また、前回お話ししました、身のまわりや地域にある歴史や文化について、引き続き情報の提供をお願いします。古くから伝わる言い伝えや古文書など、心当りがある方は事務局までご連絡ください。よろしく願います。

市史編さんだよりVol.3(平成二八年十一月号掲載)

―市史は「まちづくり」の基本資料―

常陸大宮市史編さん委員長・古代・中世史部会長 高橋 修

(茨城大学人文社会科学部教授)

〈常陸大宮市に求められるもの〉

常陸大宮市史の編さんが始まりました。審議会において有識者や市民など、様々な立場からの意見が「市史編さんの基本方針」としてまとめられ、それに従って組織された編さん委員会が、調査や研究、執筆にあたります。

第一回の編さん委員会で、私が委員長に選出されました。近畿・東海・関東など、各地の自治体史の編さん・執筆に携わってきました。その経験を活かして、市民の皆さんの誇りになるような充実した「常陸大宮市史」をまとめたいと思っています。よろしく願います。

今日の自治体史編さんには、何が求められるでしょうか。もちろんわかりやすさや読み物としての面白さ、目新しさも必要でしょう。斬新な装丁やレイアウトを考えてもよいかもしれませんが。しかし私が一番重視したいのは、「郷育立市」^{きょういくりつし}のスローガンを掲げる常陸大宮市の、将来にわたる「まちづくり」の基本資料としてもらえるような市史を、ということです。

〈個性輝く客観的な歴史〉

編さんにあたっては、忠実に基づきながら常陸大宮市の個性を輝かせたいと思っています。常陸大宮市域では、八溝山系の麓、那珂川と久慈川には生まれた特徴ある自然環境のもとで、個性豊かな歴史と文化が育まれてきました。弥生時代の人面付土器は、この土地を象徴するユニークな造形です。

「^{とら} 四われの身でありながら頼朝に諫言した岩瀬与一太郎や、佐竹本家に反旗を翻した部垂一族のような反骨の中世武士の故郷でもあります。近世には、紙生産が地域に富をもたらし、水戸藩の経済を支えました。」

詳しくは、この誌面で編さん委員の先生方に紹介してもらいます。



▲近年の調査により中世の城跡の発見も相次いでいます



▲岩瀬与一太郎諫言図絵馬 (市内岩崎 春日神社蔵)

そうした歴史を、学術的・客観的に叙述をするためには、資料の調査・収集を徹底して実施しなければなりません。今は関心をもたれていない資料でも、未来の市民や研究者なら、そこから重要な事実を解明できるかもしれません。今、関心をもたない資料にも、一〇〇年後には光があてられるのかもしれないのです。

今回の編さん事業では、「資料編」六冊の他に報告書等も刊行し、市民の活用にも供するとともに、未来への財産として残したいと考えています。

市史編さんだよりVol.4(平成二八年二月号掲載)

―昔あったこと・今できること―

考古部会長 鈴木 素行
(ひたちなか市埋蔵文化財調査センター所長)

昭和四八年(一九七三)、当時中学生の私は、大宮町下村田で古墳が発掘されていることを聞きつけ、一人自転車で向かいました。掘り上げ



▲一騎山古墳群 石室の写真



▲人面付土器「いずみ」発掘の様子

られた古墳の石室や住居跡を見て回り、父親から借りたカメラで写真を撮りました。この大宮工業高等学校の建設に伴う一騎山古墳群の発掘調査は、当時の大宮町としても現在の常陸大宮市にとっても、最初の緊急発掘でした。現在、遺跡は姿を消してしまいましたが、発掘調査の報告書が刊行され、出土した遺物が残されたのがせめてもの救いでした。遺跡を跡形もなく破壊するのではなく、歴史との共存を図る方策の一つが記録なのでしょう。

平成一八年（二〇〇六）、私は仲間と泉坂下遺跡の学術発掘を敢行しました。現地は水田のため、地表面を観察しても遺跡であるとはなかなか気づきません。地権者である菊池榮一さん（故人）が採集し、歴史民俗資料館と地元の小学校に寄贈されていた石器や土器だけが手掛かりでした。発掘の初日に人面付土器が出土し、緊張を強いられることになりましたが、それはまた発掘調査というものの醍醐味を体感させてくれる日々でした。

土中から姿を現した人面付土器は、菊池さんにも見ていただきました。調査終了後にいただいた礼状の、「我が先祖の掘り起こされた大昔の遺物の様な気がして、感慨深いものがあります」と書かれた一文が印象的でした。もちろん血縁関係などは立証できませんが、同じ土地に生活を営んだ先人への気持ちなのでしょう。保管されていた菊池さんの寄贈資料が、人面付土器「いずみ」を誕生させたのです。

平成二八年（二〇一六）、常陸大宮市史編さん委員会の中に考古部会が組織され、活動を開始しました。私自身は微力なので、考古部会には、各時代の専門家に集まってもらいました。過去の発掘調査や未報告の資料を現在の研究水準で公表し、広く永く活用できる市史を目指したいと考えています。まだまだ埋もれた資料があるはずですから、この場を借りて、市民の皆さんには情報の提供をお願いいたします。

市史編さんだよりVol.5（平成二九年一月号掲載）

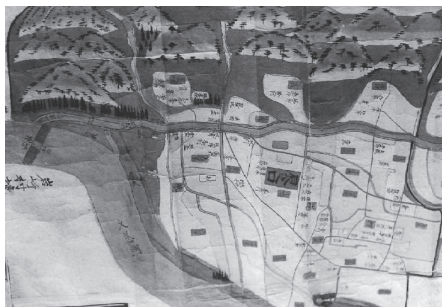
―自然と人間が織りなす歴史を描く―

近世史部会長 添田 仁
（茨城大学人文社会科学部准教授）

このたび常陸大宮市史編さん委員会に加えていただいた添田です。主に江戸時代の歴史を担当します。よろしくお願いたします。

八溝山系の山々と木々、そして那珂川・久慈川がたたえる水の流れに囲まれた常陸大宮市。豊かな自然、それも常陸大宮市の個性の一つです。この季節は、湯気が立つけんちん蕎麦を地産の日本酒と一緒に流し込んで、自然がもたらしてくれる恵みを堪能する方も多いでしょう。私もその一人です。

私たちの生活が多かれ少なかれ自然の条件を基礎にして成り立っていることはいまでもないでしょう。ゆえに、自然が人間の歴史に何を刻んできたのかということは、地域の歴史を考える際に無視できない大きな問題です。しかし、これまで自然の重要性は認識されていても、自然と人間、二つの歩みを編み込むような歴史叙述はあまりなされてきませ



▲幕末期の辰ノ口堰元付近『辰ノ口分江全図』
（『水戸藩利水史料集』より転載）



▲大正期の辰ノ口堰と瀬割堤
（『水戸藩利水史料集』より転載）

んでした。たとえば歴史の教科書を見ても、人間が自然環境に与えた影響について述べた部分に比べると、気候や地殻の変動に制約された社会のあり様についての記述はかなり少ないです。また、新しい市史でも「自然編」が「通史編」とは別に編まれる予定になっています。

江戸時代は今と比べて、人間がより自然を身近に感じていた時代と言えるでしょう。

市域で暮らした人びとの生活も、自然の恵みなしには成り立ちませんでした。西の内紙の材料となる楮、諸沢や下小瀬の火打石、高部の材木、諸沢の粉こんにやくなどが、水戸藩のふところを温めました。山川の資源を大切に活用するしくみが地域のなりわいを支えたのです。一方で、永田茂衛門親子によって那珂川・久慈川に築かれた巨大な灌漑施設（堰）が下流域を有数の田園地帯に変えたように、人間が自然の力を操るための技術も進歩しました。そして、ときに行き過ぎた開発が、土砂くずれ、洪水、獣害のような災害となって人びとの生活と命を脅かし始めたのです。

近年日本列島で頻発している自然災害は、自然と人間社会との関係をどのように考えるべきなのか、私たちに重い問いを突きつけているように思います。江戸時代の歴史には、近代以降の社会が忘れてしまった、自然と人間のつき合い方のヒントが刻まれているのではないのでしょうか。新しい市史では、自然と人間の歩みを別々に把握するのではなく、自然と人間が織りなす歴史を描くことに力を注ぎたいと考えています。

市史編さんだよりVol.6(平成二九年二月号掲載)

―激動の時代の常陸大宮を描く―

近現代史部会長 佐々木 啓

(茨城大学人文社会科学部准教授)



▲体操の授業風景(旧八里小、昭和戦前期)



▲国道118号線大宮バイパス開通時のようす(昭和58年12月)

このたび、常陸大宮市史編さん委員会の近現代史部会長を仰せつかりました。どうぞよろしくお願ひします。

さて、私たちの部会の名称である「近現代史」とは、一体いつからいつまでを言うのでしょうか。これについては学術的にいろいろな議論があるのですが、私たちはさしあたり一八六八(明治元)年から現在までを想定しています。仮に二〇一七年を現在と考えるなら、合計一四九年の歴史ということになります。

近現代史というと、まずは明治・大正・昭和(戦前・戦中)といった激動の時代を思い浮かべるかもしれません。本市域でも、文明開化に始まり、日清・日露戦争、大正デモクラシー期を経て、第二次世界大戦に至るまで、人びとを取り巻く環境は大きく変貌しました。

目覚ましい発展があった一方で、戦争やそれに伴う社会の混乱など、過酷な出来事もたくさんありました。先日、戦争中の旧八里村の公文書を調べる機会がありました。若い男性の多くが兵役召集や徴用によってこの地域を後にしていく様子や、銃後に残された方々が必死になって物資の供出に尽力する様子が、痛切に示されていました(拙稿「アジア・太平洋戦争と常陸大宮」『常陸大宮市文書館報』第二号、二〇一六年)。

こうした激動の時代の一つひとつの経験を丁寧に市史にまとめていくことは、私たち近現代史部会の必須の課題です。

一方、今回市史を編さんするにあたって、もう一つ大事なことがあると思っています。それは、「戦後の市民の歩みを描き出す」ということです。今年は戦後七十二年にあたりますから、明治以降一四九年の歴史のうち、実は半分近くを戦後が占めていることになりました。市史が完成する頃には、おそらく「近現代史」の半分以上を戦後が占めるということになるでしょう。

こうして分厚いボリュームを持つようになってきた戦後という時代を、しっかりと描いていきたいと思っています。戦後史というやや平坦なイメージを受けるかもしれませんが、GHQによる占領統治を皮切りに、高度経済成長に伴う経済的豊かさの実現、技術の発展と生活の変貌、都市への人口流出とそれに伴う過疎化の問題、などなど、歴史として検討すべきテーマは多数に及びます。戦後もまた、激動の時代だったので。市民の皆様のお力添えを得ながら、こうした激動の時代の歴史を後世に伝えるべく、尽力してまいりたいと思います。

市史編さんだよりvol.7(平成二十二年三月号掲載)

―「生活の中の文化を『市史』に記録しましょう!―

民俗部会長 大津 忠男

(茨城県立歴史館史料学芸部学芸課 首席研究員)

常陸大宮市は五つの旧町村が合併して、とても広い面積を持つ市になりました。市民の方でも、自分の住む地域以外のことは分からないという方もいるのではないのでしょうか。また地元の行事でも、詳しくは分からないかと思っている方もいるかもしれません。

例えば、「西塩子の回り舞台・祇園祭・おかしま様行事など、どうして自分の住む市にはこのような行事があるのだろうか」「山間部に住んでいる人たちと、比較的平らな地域に住んでいる人たちの暮らしや考え方に違いはあるのだろうか」「この地域では、なぜ和紙がたくさん作られ、どうやって作ったのだろうか。どこでその紙は使われたのだろうか」といった疑問をお持ちではないでしょうか。

その「どうして」「なぜ」という疑問を私たちも共有し、答えを探したいと思っています。現在分からなくなっていることでも、おじいさんやおばあさんに聞いてみるとその理由が分かることもあります。今、行われていることは、少し前の時代の先輩たちから受け継いできた事が多いのですから。今回作られる市史は、特別有名な人たちの歴史ばかりを綴るものではありません。今生きている私たちが、普段の生活の中で行っている行事や何気ない生活文化も、大切な記録として残していきたいのです。

難しいことはありません。お祭りや仕事の現場や地区の集会などを見学させてもらいながら、市民がどのような生活をしてきたのかを教えてもらい記録していこうと思っています。



▲西塩子の回り舞台



▲おかしま様行事(盛金地区)

山や川など自然豊かな常陸大宮市で生きていく中で、人々がどんな暮らしぶりか、どのような文化が育まれてきたのか、一緒に考えさせてください。きっと他に誇れる文化がたくさん見つかるはずで。自分達の先輩がどのような苦勞をし、工夫をし、楽しみを見つけ出して生きてきたのかに気付けるかもしれません。

私たち民俗の調査グループは、皆さんの所にうかがいます。常陸大宮市のことを知りたい私たちにとって、ここに住む皆さん一人一人が先生です。ぜひ、気軽にいろいろなことを教えてください。

市史編さんだよりvol.8(平成二九年四月号掲載)

―常陸大宮市の市史編さん調査(自然)―を始めるにあたって―

自然部会長 桐原 幸一

(茨城生物の会)

常陸大宮市は県内で二番目の面積を持つ、大きな市です。東は阿武隈山地、北西は八溝山地に囲まれ、東側を久慈川が流れ、西側には那珂川が流れています。

一番高い北側の尺丈山(五二一m)をはじめ、東側を明山、籠岩山、北西側には鷲子山、小瀬富士、小舟富士、高岩山、南側には山王山が周辺を囲んでいます。標高差も、南側の久慈川沿いで標高一〇mですから、約五〇〇mの標高差があります。

気象も天気予報を注意深く見ていると、隣接する栃木県の予報の方が的確に思えることがあり、常陸大宮市の自然を構成する環境が変化に富んでいて、複雑であることが実感されます。

また、奥久慈自然公園、御前山自然公園、鷲子山自然環境保全地域などの貴重な自然もあり、こうした自然公園等を挙げるまでもなく、常陸

大宮市には貴重な動植物の生息が記録されています。

植物では、イワウチワ、ミヤマスカシユリなど、昔は普通に見ることが出来たものの、今ではすっかり数の減ってしまつた種が数多く常陸大宮市内には生育しています。

動物では、ムササビ、オオムラサキなど、昔は身近に見ることの出来た種が、今では姿を見かけることも少なくなつてきています。勿論、陸上の動物だけでなく、久慈川や那珂川には貴重な種が生息したり、遡上したりしています。

今回の春の調査で気づいた貴重な種の例を挙げてみます。それはトウキョウサンショウウオです。

トウキョウサンショウウオは、主に関東地方、特に茨城県の低丘陵地に生息します。私たちが子どもの頃、沢の湧き水が流れる細流で簡単に見つけることができ、「ヤマドジョウ」などと呼ばれていました。

今回、調査してみると、埋め立てなどで多くの谷津などが失われ、生息場所も個体数もかなり少なくなつていました。この種は茨城県などで滅んでしまうと、地球上で滅んでしまうことになります。



▲相川での自然観察会の様子(茨城生物の会)



▲トウキョウオオサンショウウオとその卵のう

改めて今回の市史編さんの調査の大切さを感じました。

自然調査ではみな様の地区に入らせていただきます。気づいたことはお気軽にお伝えください。また、こんな動植物を見たなどの情報がいただければたすかります。

調査結果は自然観察会などを開催することで、広くみな様にお知らせしようと考えています。地域の自然や、そこに生息する動植物について知っていただき、大切にさせていただくことこそが、常陸大宮市の進める郷育立市につながると思います。

市史編さん日よりVol.9 (平成二九年五月号掲載)

―常陸大宮の大地を探る―

自然部会「地質分野」専門調査員 菊池 芳文

(理学博士)

平成二三年(二〇一一)の「東北地方太平洋沖地震」以降、各地で地震が頻発し、巨大地震の発生や火山の噴火に注意が注がれています。そうした地球の活動は、人の営みに被害を及ぼすことから「負の出来事」といえま。しかし、歴史的にみると生物に欠かせない多くの恵みを与えてくれているのも事実です。

地球の歴史は約四六億年といわれています。現在に至るまでには惑星の地球衝突、地球凍結や温暖化、巨大地震や巨大噴火など、想像を絶するような事件が多数発生しました。また「進化は絶滅の歴



▲陸源性堆積物の泥岩層(家和楽)

史”と言われ、数知れない種類の生物が絶滅し、同時に新たな動植物が誕生したことも判明しています。つまり、現在の自然環境は、全て地球の活動から出来上がったということです。常陸大宮市でも地球の活動から誕生したものがあります。それは、金・砂金、火打石(瑪瑙・玉髓)、石炭(亜炭)、碎石に代表される地下資源で、ある時期(一部は現在も)の地域経済を担いました。

地質分野では筆者、千葉科学大学教授八田珠郎氏、同大学研究補助員菊池美波氏を中心に、現地調査と試料分析装置を駆使し「専門性の高い市史」の完成に向けた研究を進めて行く所存です。

〈常陸大宮の基盤を成す地層〉

常陸大宮市の大地は、今から一億五〇〇〇万年以上前の中生代ジュラ紀の海底で堆積し、その後の隆起で陸地となった八溝層群の地層が基盤となっています。八溝層群の特徴は、陸地に近い環境で堆積した礫岩、砂岩、泥岩と、陸地から離れた遠洋の環境で堆積したチャートが、破壊や変形を受けて様々な大きさの岩塊となり、混在した状態で堆積していることです。これは、海洋プレートが地球内部に潜り込む際に、陸地や周辺域の地層を引きずり込むことで発生した現象で、付加体堆積物ともなっています。八溝層群の特徴は、陸地に近い環境で堆積した礫岩、砂岩、泥岩と、陸地から離れた遠洋の環境で堆積したチャートが、破壊や変形を受けて様々な大きさの岩塊となり、混在した状態で堆積していることです。これは、海洋プレートが地球内部に潜り込む際に、陸地や周辺域の地層を引きずり込むことで発



▲遠洋性堆積物のチャート層(舟生)

生じた現象で、付加体堆積物とも呼ばれます。
ほかに、マグマが貫入し冷え固まった花崗岩類（かこうがん）も認められます。市内の金はマグマの貫入に伴って誕生したものです。そのため新たな鉱物の存在も期待され、市史編さんは意義深いものとなりそうです。

市史編さんだよりVol.10（平成二九年六月号掲載）

— 「調査への」協力をよろしくお願いします —

常陸大宮市史編さん事務局 高橋拓也
（常陸大宮市教育委員会文化スポーツ課）

〈地域の歴史を守るために〉

近年、開発による土地の変化や家屋の解体、過疎化の影響にともない、古い資料が散逸・処分され、地域から徐々に姿を消しつつあります。また、歴史の語り部となる方々が高齢化していることもあり、このままでは、先人たちがのこしてきた記憶や足跡が永遠に失われてしまふことになりかねません。

「常陸大宮市史」には、まちづくりの基礎資料としてはもちろん、これまで伝えられてきた大切な歴史や暮らしを記録し、次世代へ継承するという使命があります。ふるさとの歴史を守り、後世へ引き継いでいくためには、みなさまのご協力が必要不可欠です。

〈調査対象となる資料〉

今回新たに作る市史は六つの分野（考古、古代・中世史、近世史、近現代史、民俗、自然）から成り立っています。そのため、調査の対象となる資料も、考古遺物（土器・石器類）や古文書をはじめ、史跡、祭礼、石造物、建築、動植物、鉱物など多岐にわたります。みなさまが日常の一部として捉えているものや、口伝えに聞いてきた語り、記

▼市史編さんで調査する資料（一部）

部会名	調査対象（例）
考古	考古遺物（土器、石器ほか）、遺跡、古墳など
古代・中世史	古文書、棟札、石造物（五輪塔、宝篋院塔）、城址など
近世史	古文書、村絵図、石造物（碑文、信仰）など
近現代史	古文書、古写真、映像記録、碑文など
民俗	祭礼、行事、民間伝承、暮らし、信仰、絵馬など
自然	動物、植物、昆虫、地形、鉱物、岩石など

憶なども、実は昔の足跡が刻まれた大事な資料かもしれません。例えば、ご自宅や地区に保管されている古文書・日記などは、当時の社会情勢や人びとの暮らしを知る重要な手がかりとなります。また、古写真や地図、フィルムに残された映像記録など、かつての町並みや生活の実態がわかるものについても情報を収集しています。もし、ご自宅などでこういったものを見かけたり、「古そう…。でもこれはなんだろう？」というものがございましたら、ぜひ事務局までご一報ください。

昨年八月に市史編さん事業が動き出してから、まもなく一年が経過します。この間、六つの部会が立ち上がり、調査の準備を進めてまいりました。今後、身分証を携帯した調査員や市職員が各地域を訪問し、聞き取り調査の実施や情



▲市史編さん調査員の携帯する身分証

報の提供を呼びかけることがあります。ぜひ、みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いたします。

市史編さんだよりVol.11 (平成二九年七月号掲載)

― 縄文時代の新潟県との交流 ―

考古部会専門調査員 塚本 師也

(公益財団栃木未来づくり財団 埋蔵文化財センター調査課長)

平成一四年(二〇〇二)、新潟県立歴史博物館で、新潟県の考古学研

究者達が、常陸大宮市下村田の坪井上遺跡から発掘された

一点の土器を取り囲みました。

「五丁歩の土器とソックリだ。」

と第一声があがりました。新潟

県魚沼市の五丁歩遺跡の土器と

似ており、魚沼地方で作られた

土器が常陸大宮市まで運ばれた

のではないかと意見が出されま

した。この時期の縄文土器を研

究テーマとする私もその場に居

合わせました。

この土器は、縄文時代の中頃

(今から約五〇〇〇年前)のもの

です。この時期、常陸大宮市

を含む東北地方から関東地方北

部では、縄目模様「縄文」と立



▲坪井上遺跡(下村田)から出土した縄文遺跡



▲西埜遺跡(野口)から出土した火焰型土器

体的な装飾で飾られた縄文土器が流行します。しかし、先ほどの坪井上遺跡の土器には「縄文」が見られませんが、粘土紐と線だけで装飾されています。このような土器は、北陸地方に多く見られます。そのため、この土器が魚沼地方から運ばれたと判断されたのです。北陸地方を代表する有名な「火焰型土器」も、線と粘土紐だけで文様を描いています。市内の西埜遺跡(野口)からは、「火焰型土器」を真似て作った土器が発掘されています。

坪井上遺跡からは、ヒスイで作った玉(首飾り?)が八点出土しています。一遺跡で八点の出土は全国一位です。縄文時代のヒスイの玉は、すべて新潟県糸魚川産で、北海道から沖縄まで発見されています。茨城・栃木の北部は多く出土する地域の一つです。

これらのことから、今から約五〇〇〇年前の常陸大宮市の人々は、ヒスイの玉や縄文土器などを通して、新潟県地域の人々と深く関わっていたことが分かります。このように、遺跡から発見された他地域の特徴を持つ土器や石器から、過去の人々の地域間の交流の様子を明らかにすることができます。これは、考古学が得意とする分野です。

市史編さんだよりVol.12(平成二九年八月号掲載)



▲硬玉製の大珠(市指定文化財)

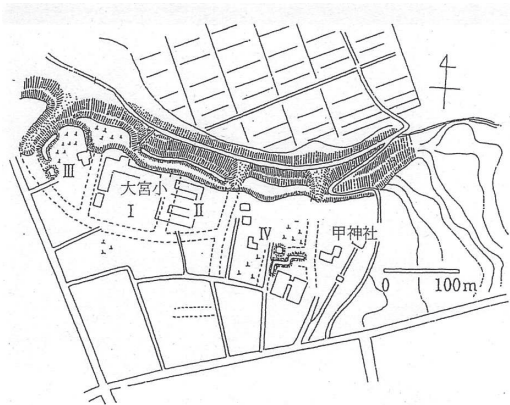
―常陸大宮市の戦国時代―

古代・中世史部会専門調査員 山縣 創明

(茨城県立水戸第一高等学校教諭)

私が主に担当する「中世」という時代は、一般的な高校日本史の教科書では、一世紀半ばの院政期から一六世紀半ばの戦国時代までとなっています。それ以前が古代、それ以降が近世という時代区分になります。この区分に従えば、常陸大宮市域に勢力をもっていた佐竹氏は、中世のみならず古代末から近世初頭にかけて活躍したということになります。佐竹氏というと、どうしても隣接する常陸太田市を連想しがちですが、佐竹氏を考える上で常陸大宮市も同様に重要な地域といえます。

とりわけ戦国時代については、佐竹氏が大きく成長する画期となった部垂へたれの乱の舞台となりました。従来佐竹氏における内乱としては、約一〇〇年続いた佐竹の乱が注目されがちでしたが、それに続く部垂の乱も佐竹氏の権力確立過程において重要といえます(拙稿「部垂の乱と佐竹氏の自立」『佐竹一族の中世』(二〇一七年)。現在の大宮小学校が部垂城跡になりますが、校舎周辺にある部垂もと義元墓碑や土塁から往時をしのぶことができます【図1】。



【図1】 部垂城縄張り図
(『図説 茨城の城郭』より転載 作図:青木義一)



【図2】 常陸大宮市域における城跡分布図
(前川辰徳「佐竹氏と下野の武士」『佐竹一族の中世』より転載)

隣接する甲神社には、部垂義元奉納と伝わる「源氏系図」や「佐竹義昭奉加帳」などが残されており、戦国時代の佐竹氏を研究するうえでの貴重な史料となります。また市内には、部垂城をはじめ長倉城や野口城、小場城など佐竹氏の有力な一族衆や国衆の拠点となった城跡や、高部館や小舟城などの佐竹氏が下野東部に進出するうえで重要な「境目の城」が多数あった地域であるということも大いに注目すべき点だと思えます【図2】。

市史編さんだよりVol.13(平成二九年九月号掲載)

―鳥類の調査状況及び成果―

自然部会「生物分野」専門調査員 仲田 立

(茨城生物の会)

常陸大宮市の鳥の調査を、今年の四月から本格的に始めました。今年度は、主に久慈川水系を調査し来年度は那珂川水系について実施する予定です。今回は、これまでに確認や撮影ができた貴重な種の一部を紹介いたします。

・サシバ（タカ科）

里山を代表するタカの仲間で、夏鳥として渡来します。ヘビやカエルなどを食べます。「ピックイー」と良く鳴きます。



・ノスリ（タカ科）

留鳥または漂鳥で、山地林で繁殖し、冬は農耕地でよく見ることが出来ます。主にネズミ類を食べます。野を擦るように飛ぶのが和名の由来といわれます。



・サンショウウクイ（サンショウウクイ科）

夏鳥として、山地の広葉樹林に飛来します。フライングギャッチして昆虫類を食べます。「ピリリー」という鳴き声が、山椒の実を食べてヒリヒリしているように聞こえるというのが和名の由来です。



私は、これまで御前山ダム周辺まではたびたび訪れていましたが、それ以外の常陸大宮市内の鳥の観察を詳しくする機会はありませんでした。縁有って今回の調査をすることになり、里山から山地林に至る、常陸大宮市の自然の豊かさを楽しませてもらっています。

国のレッドデータブックに記載されている貴重な種や近頃数を減らしていると言われるものを含め、これまで八二種の鳥を観察することが出来ました。平成三一年度までの調査で、どんな鳥に出会えるか、再度クログミなどの美しい鳴き声を聞くことができるか楽しみです。

市史編さんだよりVol.14(平成二九年一〇月号掲載)

―地域の同質性と異質性―

近世史部会専門調査員 永井 博

(茨城県立歴史館 史料学芸部長)

私は、近世史（おもに江戸時代）を専門としています。市史編さんでは政治史の視点から、当市域の変遷を考えていきたいと思っています。

さて江戸時代、常陸大宮市域はすべて水戸藩領でした。大子町や常陸太田市、那珂市、日立市、東海村、ひたちなか市なども同様です。ところが、水戸市には旧内原町域に旗本領があり、同じく茨城町などにも旗本領や幕府領があります。図一に見るように、水戸藩領は、ほとんどが水戸以北にまとまっていました。

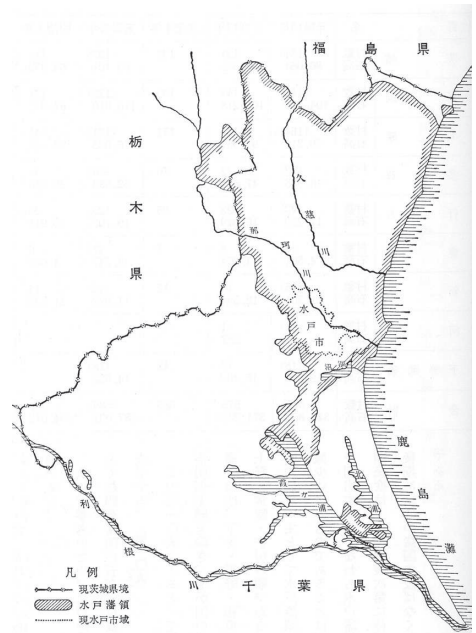
江戸時代の関東地方は、水戸藩が三五万石と圧倒的な石高を有していますが、実は大部分は譜代大名や旗本といった幕府職員の「補給地」となっています。茨城県について幕末時点の石高でみると、もっとも多いのは水戸藩領ではなく旗本領（三一万石余）です。幕府直轄領とあわせると約四四万石となり、県域全体をあわせた石高のおよそ四割が幕府関

係の領地で占められていました。

なお、水戸藩領は一部が栃木県（現那珂川町）にあるため県内の石高は二九万石で、四分の一弱の割合になります。

つまり、県北以外の地域は、同一市町村で江戸時代の領主が複数というのが普通なのです。なかにはつくば市や石岡市のように、市域の領主が五〇人以上にわたっている場合もあります。このような地域では同じ村（ほぼ現在の大字単位）でも、集落ごとに領主が異なることも珍しくはありませんでした。

こうしたことからみると、当市を含めた県北地域は例外的であることがわかります。しかも佐竹氏時代も含めると、同一領主の期間が長期にわたっており、そこで培われた「同質性」は、良くも悪くも現代の県北地域、そして当市域を考えていくうえでも見逃せない視点であると思います。また、反対にそうし



【図1】 水戸藩領図(『水戸市史 中巻(一)から)



【図2】 那珂郡図(茨城県立歴史館所蔵)

たなかで見いだされる「異質性」は、地域の特色を考える視点となるでしょう。

市史編さんだよりVol.15(平成二九年一月号掲載)

— 双六からみえる常陸大宮の町並み —

近現代史部会専門調査員 佐藤 美弥

(埼玉県立文書館学芸員)

近現代史部会では、まず合併前の町村史などに学びながら、新しい常陸大宮市史では、どのような特色を出すか、どのような組み立てがよいかを議論することから始め、本格的な調査に着手しようとするところです。

部会での議論で一致していることは、常陸大宮に生きた人々の気持ちや行動が具体的にわかる、「顔の見える歴史」を、ということでした。ひとくちに地域の歴史といっても、様々な側面があります。政治や行政、経済や産業、そして生活や文化……。とりわけ生活や文化のようすは人々の日常に近いだけに、意識的に記録が作られることが少なく、なかなか後世に伝えられません。そこで様々な資料にあたっていく必要があります。

さてここに大宮の町の商店を掲載した双六、「大宮町協同商店写真集双六」があります【図】。二二三の商店の写真がはめ込まれたコマをめぐる最後に甲神社で上がりとなる趣向です。地域の中心的な商業地だけあって三軒の宿屋、二軒の料理屋が掲載され、また醤油醸造所、薬品店や書店、そして自転車店なども載っています。土蔵造の店舗もみえる一方で、茅葺きの建物もみえるといった町の風景や店先のようにすまでわかります。



【図】大宮町協同商店写真集双六(市教育委員会蔵)

問題は、この双六はいついつ頃作られたのか、ということ。欄外に「写真師檜山静峰」が発行し、「水戸市南町大正印堂」が印刷したとありますが、残念ながら発行年月日はありません。コマのなかにヒントはないでしょうか。七番「満寿屋料理店」には「専売所側」という説明があります。「専売所」とは、明治三〇年（一八九七）に設置された、葉たばこの専売所のことでしょう。どうやら明治三〇年代以降に作られたものようです。次にそれぞれの写真をみてみると、二二番の「黒澤書肆」の写真には書店の店先に立て看板があり、ぼんやりと「全科表解」と書いているように読めます。国立国会図書館のデータベースで調べてみると、「全科表解」とは子ども向けの学習参考書で、同館には明治四三年（一九一〇）から大正二年（一九一三）のものが所蔵されています。同書はその後、昭和の初め頃まで出版されたようです。

こうして双六が作られたのだという時期を推測でき

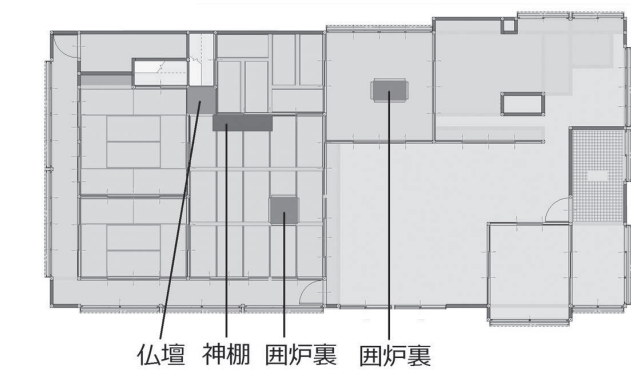
ました。当時、この双六は地元の商店がお金を出し合い販売促進のためにお客さんに配布した、生活に身近な「ちらし」のようなものだったのでしょうか。それが約一〇〇年経過した現在、かつての町並みを記録し歴史を語る貴重な資料となっているのです。

市史編さんだよりVol.16(平成二九年二月号掲載)

—正月はなぜおめでたいのか?—

民俗部会専門調査員 田中 伸吾
茨城県立歴史館史料学芸部学芸課 学芸員

遅ればせながら、新年あけましておめでとうございます。昨年はお祭りや古民家の調査などで、市民の皆様には大変お世話になりました。本年も引き続きご指導の程よろしくお願いたします。さて、年始によく見聞きする「あけましておめでとうございます」という言葉ですが、よく考えてみるとなんだか不思議な挨拶です。なぜ「年が明ける」と「おめでたい」のでしょうか。



【図1】旧K家住宅の平面図(民俗部会での調査をもとに作成)

てオトンドサン、お正月様、歳徳様など、いろいろな呼び方をされます。お正月のお餅や門松、注連縄、お飾り料理などは、本来、この年神をまつるために用意されるものでした。民俗学において、この年神の正体は祖霊(「先祖様」だと考えられています。つまり、お正月は自分たちの守り神であるご先祖様が、家に帰ってくる時期なので「めでたい」と祝われたのです。



【写真1】お正月様の年棚(藤田稔氏撮影)

元日に来訪した年神は、その日のうちに帰るのではなく、しばらくは家に滞在すると考えられていました。その間、年神は神棚にまつられます。神棚は多くの場合、居間や座敷などの家族が集まる部屋に設けられました。下の平面図は、常陸大宮市高部にある古民家のものですが、日常生活の中心だった囲炉裏のある部屋に神棚が拵えられています。【図1】また、地域によつては、作り付けの神棚とは別に、^{とんだな}年棚という年神用の神棚を用意する場合もありました。下の写真は、昭和四〇年(一九六五)一月一日に里美村(現・常陸太田市里美地区)で撮影された、お正月様(年神)をまつる年棚です。【写真1】

近年では、正月に年神をまつる家も少なくなりました。皆さんのお宅では、どのようなお正月の行事が行われたのでしょうか。調査員がお邪魔したときには、お話を聞かせてください。

市史編さんだより vol.17(平成三〇年一月号掲載)

―常陸大宮市の金―

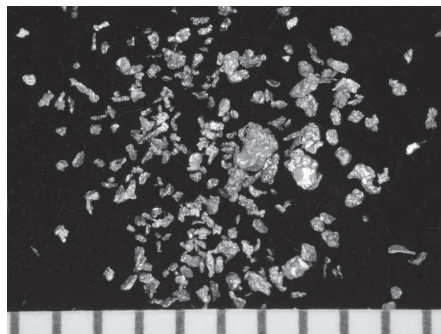
自然部会「地質分野」専門調査員 八田 珠郎
(千葉科学大学危機管理学部 教授)

少なくとも奈良時代以降、茨城県北部(常陸大宮市、大子町)から栃木県東部(那珂川町)にかけて、たくさんの金山が発見され、砂金も採られてきました。一〇年ほど前まで稼働していた本州最後の金山、栃原金山も、この地域にあります。産出される金で高品位(一〇〇%近い含金量)のものは、自然金(Au)という元素鉱物として存在しますが、銀との合金エレクトラム(Au、Ag)という鉱物として産出することが多いことがわかっています。また、この他に、含金量としては五〇%を切りませんが、テルル(Te)化金・銀という鉱物もあります。

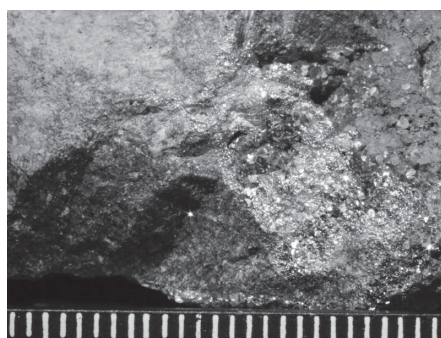
古くから金は貴重とされてきました。その理由として、金が酸化や腐食しにくく、薄く延ばすことができるなど、貨幣や装飾品として加工がしやすかったことがあげられます。

また、材料の表面を薄膜で覆う「金メッキ」も古くから行われてきました。金属を溶かしやすい水銀の性質を利用し、金を水銀に溶かしてアマルガムという合金として塗布し、加熱することで水銀だけを蒸発させる方法で、材料に金メッキを施すことができます。奈良市東大寺の大仏には、茨城栃木県境地域の、主に那珂川町武茂周辺で産出した金を使用し、奈良県や三重県で古くから産する水銀を用いてアマルガム法で金メッキを施しています。加熱によって発生する水銀の蒸気はきわめて有毒のため、大仏の建立にあたっては多くの死者が出たといわれています。

金は主に熱水鉱脈に石英や硫化鉱物(硫黄と金属が結合した鉱物)とともに産出します。当地域でも熱水鉱脈が形成され、金、石英や硫化鉱物が誕生しました。マグマが地下深くでゆっくりと冷えて固まっていく



▲金(中生代ジュラ紀八溝層群産)



▲黄鉄鉱(中生代ジュラ紀八溝層群産)

ときに、石英は最後にできます。化合物になりにくい金は、最後まで相手が見つからず、元素のままです。石英と一緒に産出します。岩石が風化して侵食され河川に流された場合は、砂金として発見されます。また、色は金に似ていますが、黄鉄鉱という鉱物があります。鉄の硫化物(FeS²)なので、金(Au)とは別物です。しかし、黄鉄鉱は多くの場所で産出するため、初めて黄鉄鉱を見た人は、金と勘違いしてしまうことがあります。このため、黄鉄鉱は俗に愚か者の金(Fool's gold)といわれることがあります。常陸大宮市から大子町にかけては、金に由来する地名が多く残っています。古い記録もたくさんあるようです。この地域で、ゴールデンエリアをつくるのが私の理想です。

市史編さんだよりVol.18(平成三〇年二月号掲載)

刊行物紹介

常陸大宮市では、旧町村時代を含め、現在まで多くの刊行物を刊行してきました。これらの成果を引き継ぎ、かつ新たな調査研究を取り入れた『常陸大宮市史』の編さんを目指していきます。

自治体史

刊行物名	発行	刊行年
山方町誌 上巻	山方町誌編さん委員会	1976
山方町誌 下巻	〃	1982
大宮町史	大宮町史編さん委員会	1977
大宮町史 史料集	〃	1980
緒川村史	緒川村史編さん委員会	1982
御前山村郷土誌(改訂版)	御前山村郷土誌編さん委員会	1990
御前山村郷土誌資料第一集 ふるさとの民俗	御前山村教育委員会	1989
御前山村郷土誌資料第二集 ふるさとの文化財めぐり - 御前山村の碑文 -	〃	1995
御前山村郷土誌資料第三集 ふるさとの地名と古文書	〃	1996
御前山村郷土誌資料第四集 ふるさとの史跡を探る	〃	1998
御前山村郷土誌資料第五集 ふるさとの昔ばなし	〃	1998
御前山村郷土誌資料第六集 ふるさとの史跡を探る(2)	〃	1999
御前山村郷土誌資料第七集 ふるさとの歴史を探る	〃	2001
御前山村郷土誌資料第八集 ふるさとの史跡を探る(3)	〃	2003
美和村史	美和村史編さん委員会	1993
美和村史料 近世村絵図	〃	1996
美和村史料 新聞記事	〃	2002

閉町・閉村記念誌

刊行物名	発行	発行年
大宮町 半世紀の記録～未来に輝く人と緑と活力のまち大宮～	大宮町	2004
緒川村閉村記念 緒川村のあゆみ	緒川村	2004
御前山村 閉村記念誌	御前山村	2004
美和村閉村記念誌 48年のあゆみ 星空のシンフォニー「美和」	美和村	2004
山方 永遠のふるさと 山方町閉町記念誌	山方町	2004

広報縮刷版

刊行物名	発行	収録年
広報おおみや 縮刷版 第1巻	大宮町	1955～1977
広報おおみや 縮刷版 第2巻	〃	1978～1995
広報おおみや 縮刷版 第3巻	〃	1995～2004
広報みわ 復刻版 第1巻	美和村	1956～1988
広報みわ 復刻版 第2巻	〃	1989～1986
広報みわ 復刻版 第3巻	〃	1986～1992
広報みわ 復刻版 第4巻	〃	1992～1997
広報みわ 復刻版 第5巻	〃	1997～2001
広報みわ 復刻版 第6巻	〃	2001～2004
広報やまがた 縮刷版 第1巻	山方町	1956～1988
広報やまがた 縮刷版 第2巻	〃	1989～1998
広報やまがた 縮刷版 第3巻	〃	1999～2004
広報ごぜんやま 復刻版 第1巻	御前山村	1957～1979
広報ごぜんやま 復刻版 第2巻	〃	1979～1988
広報ごぜんやま 復刻版 第3巻	〃	1989～1994
広報ごぜんやま 復刻版 第4巻	〃	1995～2000
広報ごぜんやま 復刻版 第5巻	〃	2000～2005
広報おがわ 復刻版 第1巻	緒川村	1960～1979
広報おがわ 復刻版 第2巻	〃	1980～1986
広報おがわ 復刻版 第3巻	〃	1986～1992
広報おがわ 復刻版 第4巻	〃	1992～1997
広報おがわ 復刻版 第5巻	〃	1997～2001
広報おがわ 復刻版 第6巻	〃	2001～2004
広報常陸大宮 縮刷版 第1巻	常陸大宮市	2005～

考古関係刊行物

刊行物名	発行	刊行年
町村合併40周年記念特別展 大宮の考古遺物 - 那珂・久慈の清流にはぐくまれた大宮町の先史・古代 -	大宮町歴史民俗資料館	1995
画報泉坂下遺跡 - 人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群 -	常陸大宮市教育委員会	2012
平成26年度企画展 ミッション!! 東日本の弥生時代を解明せよ!	常陸大宮市歴史民俗資料館	2014
茨城県常陸大宮市埋蔵文化財分布地図 (平成27年12月現在)	常陸大宮市教育委員会	2015
泉坂下遺跡ガイドブック「いずみのツボ」	〃	2017
泉坂下遺跡国史跡・出土遺物国重要文化財指定記念シンポジウム「なんだっぺ? 泉坂下」～再葬墓研究最前線～講演等要旨・資料	〃	2017

埋蔵文化財調査報告書

刊行物名	発行	刊行年
常陸一騎山	大宮町教育委員会	1974
茨城県大宮町小野天神前遺跡 〈資料編〉	茨城県立歴史館	1977
富士山遺跡調査報告書 I	大宮町教育委員会	1979
常陸鷹巣遺跡 (第一次調査)	"	1983
常陸鷹巣遺跡 - 第2次発掘調査報告 - 鷹巣遺跡隣接地調査報告	"	1987
菊池製作所建設地造成に伴う埋蔵文化財の確認調査	"	1991
茨城県梶巾遺跡 大賀小学校校舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	大宮町教育委員会	1985
常陸源氏平 - 那珂郡阿波郷丈部里比定地に於ける集落址の調査 - (出土遺物編)	水戸北部中核工業団地内埋蔵文化財発掘調査会	1985
山方城跡 御城館跡発掘調査報告書	山方町教育委員会	1986
上村田小中遺跡	大宮町教育委員会	1988
諏訪台遺跡	大宮町諏訪台遺跡発掘調査会	1991
大宮町根本古墳群測量調査報告書 - 分譲住宅地造成に伴う古墳群の測量調査 -	大宮町教育委員会	1991
常陸大宮 姥賀遺跡	大宮町教育委員会	1992
松原遺跡	松原遺跡発掘調査会	1992
江下山古墳	"	1992
墳丘確認実測調査報告書	山方町教育委員会	1997
坪井上遺跡	"	1999
大宮ショッピングセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	大宮町教育委員会	1999
上宿上坪遺跡 発掘調査報告書	"	2004
高ノ倉遺跡 発掘調査報告書	常陸大宮市教育委員会	2005
那賀城跡 常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書	"	2005
鷹巣原遺跡 発掘調査報告書	"	2007
上ノ宿遺跡 発掘調査報告書	"	2008
上ノ宿遺跡 - 第2次調査Ⅰ - 発掘調査報告書	" (※パスコ)	2009
上ノ宿遺跡 - 第2次調査Ⅱ - 発掘調査報告書	" (※日考研)	2009
上ノ宿遺跡 - 診療所・調剤薬局造成に伴う埋蔵文化財発掘調査	"	2013
上ノ宿遺跡Ⅳ 携帯電話基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	"	2014
上ノ宿遺跡Ⅴ - 店舗開発工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	"	2016
西塙遺跡 発掘調査報告書	"	2009
西塙遺跡発掘調査報告書	"	2009
岡原遺跡 - 中山間地域総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	"	2011
泉坂下遺跡	"	2011
泉坂下遺跡Ⅱ 保存整備事業に伴う第1次確認調査報告	"	2013
泉坂下遺跡Ⅲ 保存整備事業に伴う第2次確認調査報告	"	2014
泉坂下遺跡Ⅳ 保存整備事業に伴う第3次確認調査報告	"	2015
泉坂下遺跡Ⅴ - 人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群 - 保存整備事業に伴う第4次確認調査報告及び総括報告	"	2016
赤岩遺跡Ⅰ 畑地帯総合整備事業三美地区に伴う埋蔵文化財発掘調査1	"	2012
赤岩遺跡Ⅱ・三美中道遺跡Ⅰ	"	2013
畑地帯総合整備事業三美地区に伴う埋蔵文化財発掘調査2	"	2013
滝ノ上遺跡Ⅰ 畑地帯総合整備事業三美地区に伴う埋蔵文化財発掘調査3	"	2014
三美中道遺跡Ⅱ・滝ノ上遺跡Ⅱ	"	2015
畑地帯総合整備事業三美地区に伴う埋蔵文化財発掘調査4	"	2016
滝ノ上遺跡Ⅲ 畑地帯総合整備事業三美地区に伴う埋蔵文化財発掘調査5	"	2016
滝ノ上遺跡Ⅳ 畑地帯総合整備事業三美地区に伴う埋蔵文化財発掘調査6	"	2016
鷹巣戸内遺跡 市道1418号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査	"	2013
石沢台遺跡 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査	"	2013
石沢台遺跡Ⅱ 市道3012号線道路改良に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	"	2016
石沢台遺跡Ⅲ 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	"	2016
北原遺跡Ⅰ 道の駅整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	"	2014
北原遺跡Ⅱ 市道改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	"	2016
山根遺跡	"	2014
特別高圧架空送電線鉄塔新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	"	2014
中崎遺跡Ⅰ	"	2017

歴史関係刊行物

刊行物名	発行	刊行年
義民顕彰録	緒川村教育委員会	1975
おおみやまち 教育の昔と今	大宮町教育委員会	1995
水戸藩 大宮郷校	"	1995
大宮町立実践女学校	"	2003
辰之口分江全図	常陸大宮市教育委員会	2006
館くたてと宿くしゆくの中世 - 常陸大宮の城跡とその周辺 -	常陸大宮市	2009
大宮の地名 - 市民による旧大宮地域の地名調査の報告 -	常陸大宮市 大宮郷土研究会	2010
常陸大宮市文化財マップ (改訂版)	常陸大宮市教育委員会	2012
常陸大宮市郷育読本	常陸大宮市	2013
伝えよう つなごう つくろう ふるさと常陸大宮	"	2013
企画展図録 水戸と奥州をつなぐもうひとつの道南郷道	常陸大宮市歴史民俗資料館	2014
常陸大宮ふるさと見て歩き	常陸大宮市教育委員会	2014
【改訂版】図説永田茂衛門親子と三大江堰	"	2015
常陸大宮 戦争の記憶 1	常陸大宮市文書館	2016

史料目録

刊行物名	発行	刊行年
美和村史料所在目録 (一)	美和村史編さん委員会	1987
美和村史料所在目録 (二)	"	1987
美和村史料所在目録 (三)	"	1988
美和村関係『いはらき』新聞記事 表題索引目録	"	1989
受入資料目録	山方町立歴史民俗資料館	1989
御前山村古文書目録	御前山村教育委員会	2004
常陸大宮市史料目録 (一)	御前山村郷土史研究クラブ 常陸大宮市教育委員会	2007

史料集

刊行物名	発行	刊行年
大宮町古文書史料集 (一) 菊池家御用留 (一)・豊田家諸御用留	大宮町教育委員会	1997
水戸藩利水史料集 - 永田茂衛門父子の業績と三大江堰 -	"	2002
常陸大宮市近世史料集 (一) 美和地域編 I	常陸大宮市教育委員会	2009
常陸大宮市近世史料集 (二) 美和地域編 II	"	2011
常陸大宮市近世史料集 (三) 美和地域編 III 高部大森良英家文書 1	"	2013
常陸大宮市近世史料集 (四) 美和地域編 IV 高部大森良英家文書 2	"	2014
常陸大宮市近世史料集 (五) 美和地域編 V 高部大森良英家文書 3	"	2015
常陸大宮市近世史料集 (六) 美和地域編 VI 高部大森良英家文書 4	"	2016
常陸大宮市近世史料集 (七) 御前山地域編 I 野口関沢賢家文書 1	"	2016
常陸大宮市近世史料集 (八) 御前山地域編 II 野口関沢賢家文書 2	"	2017

民俗関係刊行物

刊行物名	発行	刊行年
神社棟札調査書	緒川村教育委員会	1989
大宮町の民話	大宮町教育委員会	1992
大宮町歴史民俗資料館調査報告書	"	1994
西塩子の回り舞台	"	1994
第4回企画展 西塩子の回り舞台 -その道具と芝居の周辺-	"	1994
山方町立歴史民俗資料館図録	山方町教育委員会	1994
おおみやの野仏とその祈り	大宮町教育委員会	1995
ふるさと文化財めぐり -御前山村の碑文-	御前山村教育委員会	1995
大宮町絵馬調査報告書 大宮町の絵馬	大宮町教育委員会	1999
山方の石仏石塔	山方町教育委員会	1999
大宮町の年中行事 -年中行事・大宮の祇園・講行事調査報告書-	山方町文化財保存研究会 大宮町教育委員会	2000
図録 下檜沢宿里の歌舞伎の舞台(襖)道具	美和村教育委員会	2004
むら・ひと・くらし写真が語る茨城の民俗	美和村舞台道具保存会	2005
西塩子の回り舞台	常陸大宮市歴史民俗資料館	2005
常陸大宮市歴史民俗資料館調査報告書	西塩子の回り舞台保存委員会	2008
門井の舞台 -御前山地域門井地区に残る組立式舞台の道具-	常陸大宮市歴史民俗資料館	2010

自然関係刊行物

刊行物名	発行	刊行年
古代ゾウ化石の発掘 ステゴロフォドン頭蓋化石の調査	茨城県自然博物館 常陸大宮市教育委員会	2012

美術関係刊行物

刊行物名	発行	刊行年
野澤白華 特別展 -久慈川畔で生まれた明治の文人画家-	野澤白華展実行委員会	1991

その他刊行物

刊行物名	発行	刊行年
常陸大宮市ふるさと検定問題集	常陸大宮市教育委員会	2015

編集後記

常陸大宮市史編さん事業が本格始動してから約一年半という短い期間の中、最初の刊行物となる『常陸大宮市史研究 第一号』を刊行することが出来ました。この場を借りまして、事業にご協力いただいた皆さまに改めて厚く御礼申し上げます。

事業が始まってからしばらくは、専門部会の組織や調査方針の確立に重点を置き、実質的な調査は一年にも満たない部会が多い中、考古部会の萩野谷悟専門調査員をはじめ、近現代史部会の石井裕専門調査員、民俗部会の林圭史専門調査員、自然部会の佐々木泰弘専門調査員、藤田弘道専門調査員、中崎保洋協力員に論稿を寄稿していただきました。また、各専門部会長には巻頭企画にご協力いただきました。ご多忙の中、本当にありがとうございました。

そして、各部会の調査にあたっては、多くの市民の皆さまにご協力、ご助言をいただきました。常陸大宮市史編さん事業は始まったばかりです。今後ますます、各調査員が現地を訪問し、皆さまのお話を聞かせていただくことや、地区に残る古文書などを調査する機会が多くなります。常陸大宮市の歴史や文化を記録し、未来へ遺していくためにも、事業へのご協力をよろしくお願いいたします。

〈常陸大宮市史編さん事務局〉

皆川 嗣郎	(事務局長・文化スポーツ課長)
石井 聖子	(文化スポーツ課参事)
中村 直人	(主任)
中林 香澄	(主幹)
高橋 拓也	(主事)
渡瀬 綾乃	(嘱託職員)
米山 寛	(嘱託職員)
鈴木 治雄	(臨時職員)
栗田喜代子	(臨時職員)

常陸大宮市史研究 第一号

発行日 平成三〇年三月二〇日

編集 常陸大宮市史編さん委員会

発行 常陸大宮市教育委員会

〒三一九―二二九五

茨城県常陸大宮市中富町三一三五―六

電話 〇二九五―五二―一一一 (内線三四)

印刷 竹花印刷(有)